

# 里館遺跡

SATATE SITE

—保育園建築に伴う緊急発掘調査報告書—

2019. 8

社会福祉法人 天昌寺福祉会

盛岡市教育委員会

# 例 言

1. 本書は、岩手県盛岡市天昌寺町に所在する里館遺跡で実施した発掘調査の報告書である。
2. 本書は、保育園建設に係る事前調査であり、記録保存を目的とした緊急発掘調査である。調査期間は、平成30年4月3日から平成30年6月22日、調査面積は920㎡である。
3. 本調査は、事業主体者である社会福祉法人天昌寺福祉会と盛岡市教育委員会との間に締結された協定書に基づき、盛岡市遺跡の学び館が野外調査および出土資料整理・報告書編集を行った。また、本調査に係る費用は、事業主体である社会福祉法人天昌寺福祉会より支出された。
4. 本書の編集は盛岡市遺跡の学び館が行い、執筆作業は佐々木亮二、今野公顕が担当し、佐々木あゆみ、上柿南が補佐した。
5. 遺構平面位置は日本測地系を用い、公共座標第X系を座標変換した調査座標で表示した。  
里館遺跡            調査座標原点     $X - 32,000 \cdot Y + 24,500 \rightarrow R X \pm 0 \quad R Y \pm 0$
6. 高さは標高値をそのまま使用している。

7. 遺構記号は次のとおりである。

遺 構	記 号	遺 構	記 号	遺 構	記 号
柱 列 跡	SA	掘立柱建物跡	SB	堀・溝跡	SD
竪穴建物跡	SI	土 坑	SK	竪 穴	RE

8. 調査業務の一部を下記業者に委託した。  
調査座標設置及び航空写真撮影    株式会社タックエンジニアリング
9. 調査および整理作業には、次の方々の協力を得た。(五十音順、敬称略)

[発掘調査・室内整理作業]

伊藤敬子、及川亜矢子、及川京子、折原エツコ、川村久美子、小松愛子、佐藤和子、佐藤美智子、佐野光代、高橋弘子、千葉留里子、細田幸美

[助言・協力]

岩手県教育委員会、宗教法人天昌寺、社会福祉法人天昌寺福祉会、中村隼人

10. 発掘調査に伴う出土遺物および諸記録は、盛岡市遺跡の学び館で保管している。

# 目 次

例 言
目 次
表 目 次
挿図目次
写真図版目次

I 遺跡の環境	1
II 調査成果	4
III 総括	44
付章	

# 表 目 次

第1表 里館遺跡調査成果一覧①	7
第2表 里館遺跡調査成果一覧②	8
第3表 竪穴建物跡一覧	9
第4表 竪穴跡一覧	9
第5表 柱列跡一覧	19

第6表 掘立柱建物跡一覧	19
第7表 溝跡一覧	33
第8表 土坑一覧	33
第9表 ピット計測一覧	37

# 挿 図 目 次

第1図 里館遺跡位置図	1
第2図 地形分類と周辺の遺跡分布	3
第3図 里館遺跡全体図	5
第4図 第64次調査区全体図	10
第5図 第64次調査区遺構配置図	11
第6図 S I 323 竪穴建物跡	12
第7図 S I 324 竪穴建物跡	13
第8図 S I 325 竪穴建物跡	14
第9図 S I 326 竪穴建物跡	15
第10図 S I 327 竪穴建物跡	16
第11図 S I 328 竪穴建物跡, RE 004 竪穴跡	17
第12図 RE 005 竪穴跡	18
第13図 SA 308 ~ 311 柱列跡	20
第14図 SA 312 · 313 柱列跡	21
第15図 SB 320 · 321 掘立柱建物跡	22
第16図 SB 322 掘立柱建物跡	23
第17図 SB 323 ~ 325 掘立柱建物跡	24

第18図 SB 326 ~ 328 掘立柱建物跡	25
第19図 SB 329 掘立柱建物跡 (1)	26
第20図 SB 329 掘立柱建物跡 (2)	27
第21図 SB 330 · 331 掘立柱建物跡	28
第22図 SB 332 ~ 335 掘立柱建物跡	29
第23図 SB 336 · 337 掘立柱建物跡	30
第24図 SB 338 · 339 掘立柱建物跡	31
第25図 SB 340 · 341 掘立柱建物跡	32
第26図 SD 300 · 413 溝跡	34
第27図 SK 456 ~ 460 土坑	35
第28図 SK 461 ~ 467 土坑	36
第29図 ピット断面図 (1)	38
第30図 ピット断面図 (2)	39
第31図 遺構, 遺構外出土遺物 (1)	41
第32図 遺構, 遺構外出土遺物 (2)	42
第33図 遺構, 遺構外出土遺物 (3)	43
第34図 齊藤家五代目善右衛門豊昌様之里館の絵図	51 · 52

# 写真図版目次

第1図版	里館遺跡第64次調査区遠景，里館遺跡第64次調査区全景	55
第2図版	S I 327 竪穴建物跡，竪穴建物跡（S I 323～325）重複状況	56
第3図版	S A 312 柱列跡，S B 324～328 掘立柱建物跡	57
第4図版	S B 329 掘立柱建物跡，S D 300 堀跡	58
第5図版	里館遺跡第64次調査出土遺物①	59
第6図版	里館遺跡第64次調査出土遺物②	60

## ○遺物について

挿図中の記号番号は，遺物の出土地点及び出土層位を表している。

(例) R A 001 A層 → R A 001 竪穴住居跡A層より出土

(例) G 6 - A 2 0 III a層

↓ ↓ ↓

※1 ※2 ※3

- ※1 大グリッド……遺跡の全体を50mメッシュで区切り設定した。北西隅を起点に西から東にA・B・C……のアルファベット，北から南には1・2・3……のアラビア数字を付し，A6，C12など，両方の組み合わせでグリッド名を表した。
- ※2 小グリッド……大グリッドの中をさらに2mメッシュで区切り，北西隅を起点として西から東にA～Yのアルファベット，北から南に1～25のアラビア数字を付し，グリッド名は両方の組み合わせで表した。
- ※3 遺物の出土層位を示す。

## ○遺構について

各遺構の平面図で，複数の遺構を同一図面に表示する場合，説明する遺構は実線で表し，重複遺構は一点鎖線で表し，掘込面に層位差のある重複遺構は二点鎖線で表した。

土層図は堆積のしかたを重視し，線の太さを使い分けた。層相の観察にあたっては『新版標準土色帖』（1994 小山正忠・竹原秀雄）を参考にした。

# I. 遺跡の環境

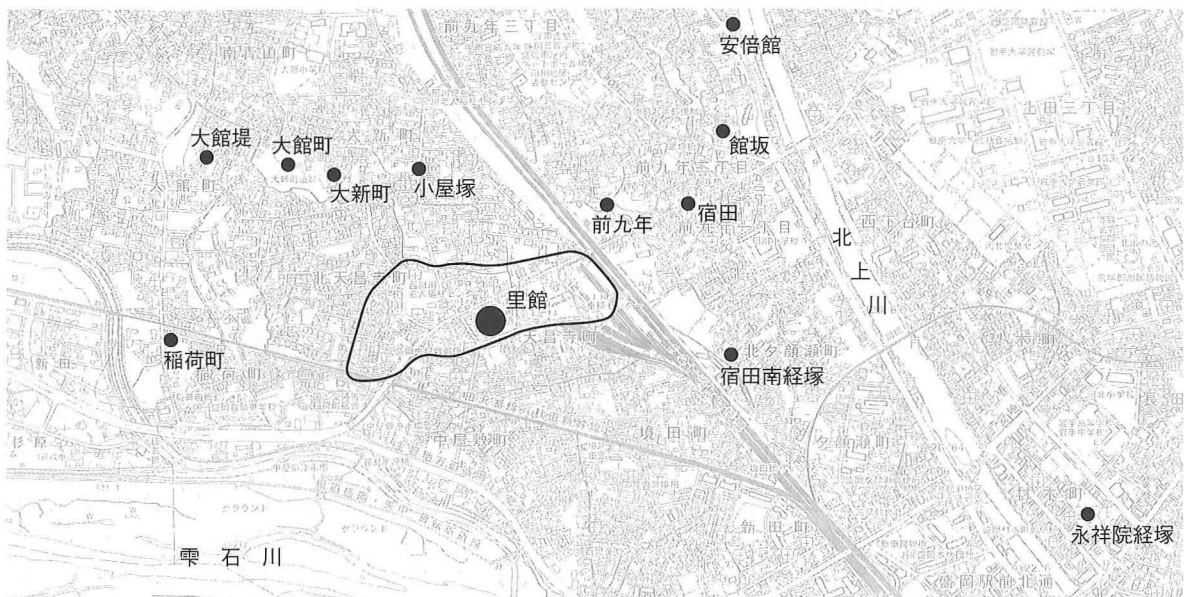
## 1. 地理的環境

**遺跡の位置** 里館遺跡は、盛岡市街地より北西約3kmの天昌寺町内に所在する(第1図)。かつては水田・畑などの農地が主体を占めていたが、近年は急速に宅地化が進められている。遺跡の範囲は南北250～380m、東西650mと推定され、標高は129～132mである。現況は宅地である(第2図)。

**地形・地質** 盛岡市は東に北上山地、西に奥羽山脈を擁し、北西には岩手山(2,038m)を望む。中央部に位置する北上平野には、東北一の大河である北上川が流れる。北上山地と奥羽山脈は、構成する地質やその形成年代が異なるため、東西の地形の様相は大きく異なる。

北上山地の地質は、その構造史より、北部北上帯、南部北上帯とその間に分布する根田茂帯の三つに大きく分けられる。かつて、北上山地の地質を南北に区分する境界断層帯は、「早池峰構造帯」と呼ばれていたが、近年の研究成果により、地帯区分の整理が進み、現在は南部北上帯の最下部を構成する複合岩類として区分されている。いずれの地帯も先新第三系から成る。また、岩手山を含む八幡平火山地域の火山活動も盛岡の地質・地形に大きく影響を及ぼしている。

奥羽山脈より東流する雫石川は、雫石盆地を形成し、その流れは烏泊山と箱ヶ森に挟まれた北の浦(市内上太田)で急激に狭められ、その狭窄部を抜けて市街地付近で北上川と合流する。雫石川は有史以前から何度も流路を変えており、雫石川南岸に広がる沖積段丘の形成に大きな影響を及ぼしている。また、里館遺跡が立地する北岸の沖積段丘の形成にも影響を与えており、遺跡の南端は、雫石川の旧河道によって画された比高差3～4m段丘崖となっている。この段丘は、雫石川の氾濫によって形成された所謂自然堤防であり、縄文時代中期の土器片を含む黒色土層を基底とし、その上層に2～3mの厚さで砂礫・シルト・粘土層が互層に堆積している。この砂礫層やシルト層の間には、厚さ0.2～5cmほどの鉄分が沈殿した層が入り込んでいる。これは段丘が水漬けと乾燥の状態を繰り返し、徐々に形成されていったことを裏付けるものである。



第1図 里館遺跡位置図(1:20,000)

## 2. 歴史的環境

**周辺の遺跡** 里館遺跡が立地する沖積段丘の北側には、岩手山を主な給源とする火山灰砂台地（滝沢台地）の南縁部が接しているが、その範囲は盛岡市北部から滝沢村北部までおよび、数多くの縄文～平安時代の遺跡が立地する。

**縄文時代** 滝沢台地の南東部にあたる厨川地区には数多くの縄文時代の遺跡が分布している。大新町・大館町・安倍館遺跡からは草創期の「爪形文土器」が発見されている。それに続く早期の押型文や貝殻文土器も大新町遺跡から出土している。ほかにも大館堤・館坂・前九年・宿田遺跡で早期初頭～末の土器群が確認されている。中期になると大館町遺跡に大規模な集落が営まれるようになり、周辺の大館堤・大新町・小屋塚遺跡でも小規模な派生集落が確認されている。

**弥生～古墳** 弥生時代については遺物が少量発見されるものの、明確な遺構はあまり確認されていない。安倍館遺跡で弥生終末期の赤穴式、後北C 2-D式が出土している。古墳時代の遺構・遺物も発見は少ないが、宿田遺跡で北大I式や南小泉式併行期の古式土師器など、続縄文や古墳時代中期～後期の遺物が確認されている。

**古 代** 奈良時代になると小規模ながら、大館町・大新町・小屋塚遺跡に竪穴住居が造られ集落が営まれ始める。また、本遺跡の北東に位置する宿田遺跡からは円形周溝墓が数多く発見されており、周辺集落の共同墓地として利用されていたと推測される。平安時代（9世紀）になると志波城（803年）が造営され、この地域にも律令国家の支配が及ぶ。

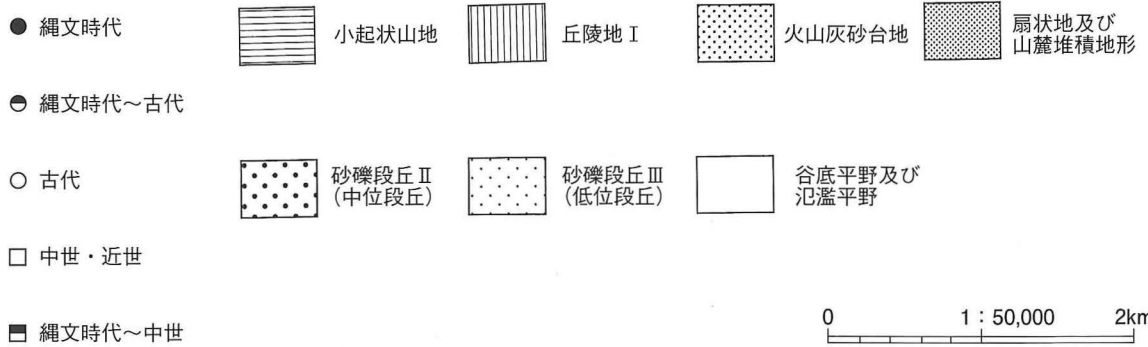
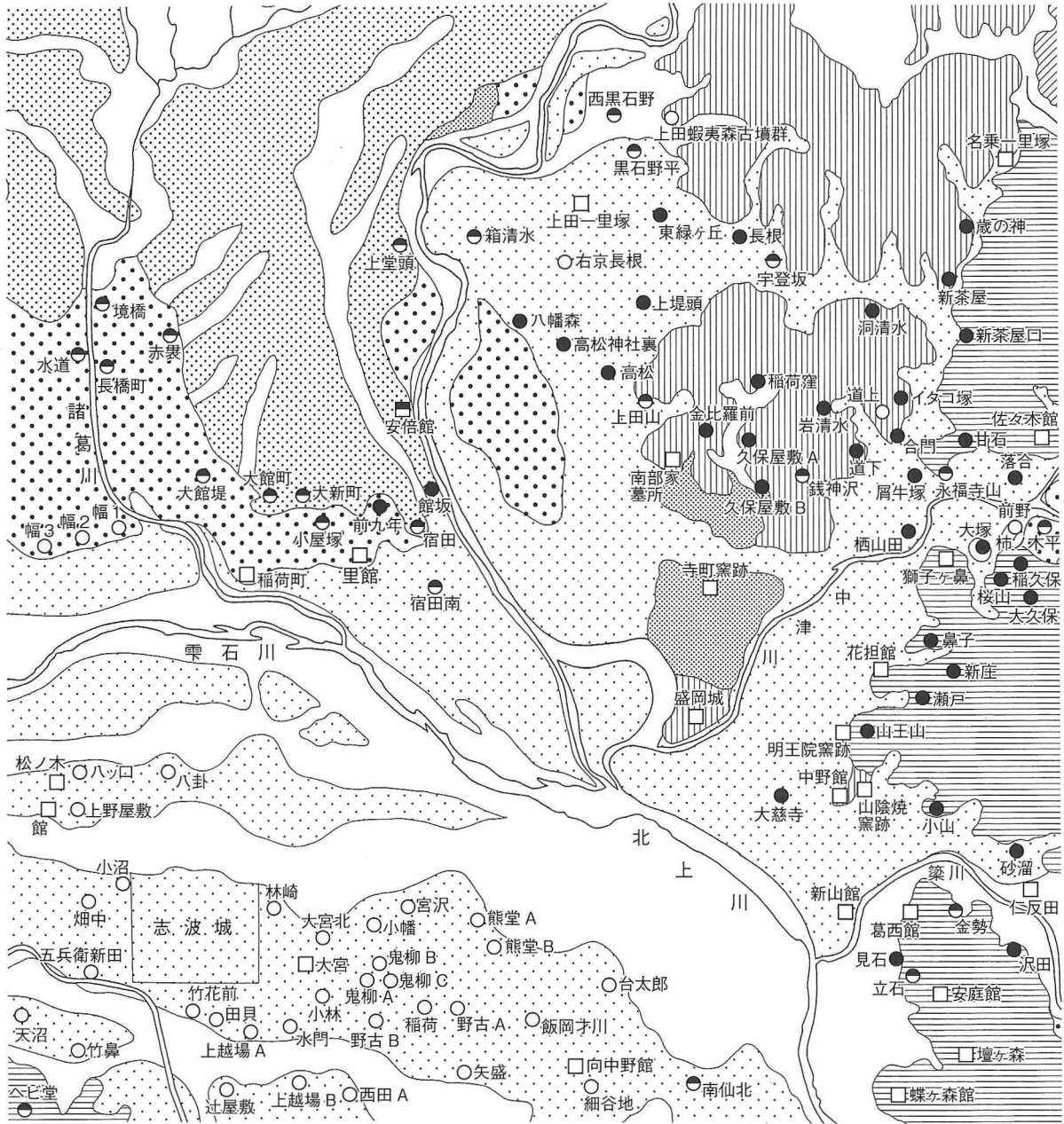
10世紀後半から12世紀までの遺跡は少ないが、大新町遺跡や小屋塚遺跡では11世紀前半頃の掘立柱建物や竪穴と土器が出土している。境橋遺跡、宿田遺跡、上堂頭遺跡でも11世紀前半の遺構遺物が確認されている。また、近年の発掘調査で里館遺跡の北西約1.5キロに所在する赤裳遺跡では、土器製作工房から数千点に及ぶ11世紀前半の土器が出土し、その供給先であろう「厨川柵」の存在を間接的ではあるが、裏付ける成果が上がっている。里館遺跡でも12世紀後半の溝と土塁で構成された虎口や掘立柱建物跡など、居館に付随する遺構が確認されている。

**中 世** 戦国期の盛岡周辺は、南部氏と斯波氏の衝突が激しかった地域であるが、市内に数多く分布する城館の多くは、室町時代から戦国時代に築かれたものと考えられている。これらの城館跡は、丘陵や山頂など見晴らしのいい場所だけでなく、平野部でも交通の要衝に当たる微高地上に多数築かれている。里館遺跡は15～16世紀を主体とした、工藤氏の城館跡であり、安倍館遺跡も工藤氏が築いた7つの曲輪を擁する16世紀を中心とした栗谷川城跡である。

**近 世** 現在の城下の町並みの形成は、南部氏の盛岡城築城から始まる。

九戸合戦終結後の天正19年（1591）、南部信直は帰還する豊臣軍の軍監浅野長政から不來方城において、この不來方の地に新城を築くよう、積極的に奨められている（『祐清私記』）。その後、慶長2年（1597）より盛岡城の築城は始まり、寛永10年（1633）に一応の完成をみる。

江戸時代、里館遺跡が位置する厨川地区は厨川通栗谷川村に属し、東に鹿角街道、南に秋田街道が通じていた。絵図などを参照すると天昌寺付近には民家が立ち並び、後述する附章にもあるとおり諸土と思われる屋敷も存在していた。近世に属すると考えられる掘立柱建物跡等の遺構は、それら栗谷川村を構成していた建物の一部であろう。



第2図 地形分類と周辺の遺跡分布

## II. 調査成果

### 1. 遺跡の現況と過去の調査

里館遺跡は安倍館遺跡のような古絵図はないが、藩政時代末期の下厨川村絵図や極東米軍が撮影した昭和24年(1949)の航空写真や明治期の地籍図等に、これまでの発掘調査で確認した堀や溝の位置や現況の地形を当てはめて判読される城郭構造を表したのが第3図である。

遺跡の南端は、比高差3～4mの段丘崖で雫石川の旧河道によって画されている。それに沿って東西約400mに渡りⅠ～Ⅶの曲輪が並列している。

寛文八年(1668)の奥州栗谷川古城図では、里館の西方に勾当館(勾当館)が記されており、その南側の低地は勾当下と呼ばれていた。また、天保四年(1833)に記された『盛岡砂子』には天昌寺西側の里館について「いつの頃何某の居館にや由来を不詳」とあり、館主は不明であるが館跡という認識はあったようである。このことから勾当館はⅠ～Ⅱを主体する部分の呼称と推測され、里館はⅥ～Ⅶの部分为主体とすると考えられる。また、Ⅲ・Ⅳは縄張りや地形の連続性から勾当館に付随する曲輪で、Ⅴは東側が大きな堀を隔てているものの、西の勾当館側にも大きな堀跡が存在することから、現段階では里館の曲輪に含まれると考えられる。

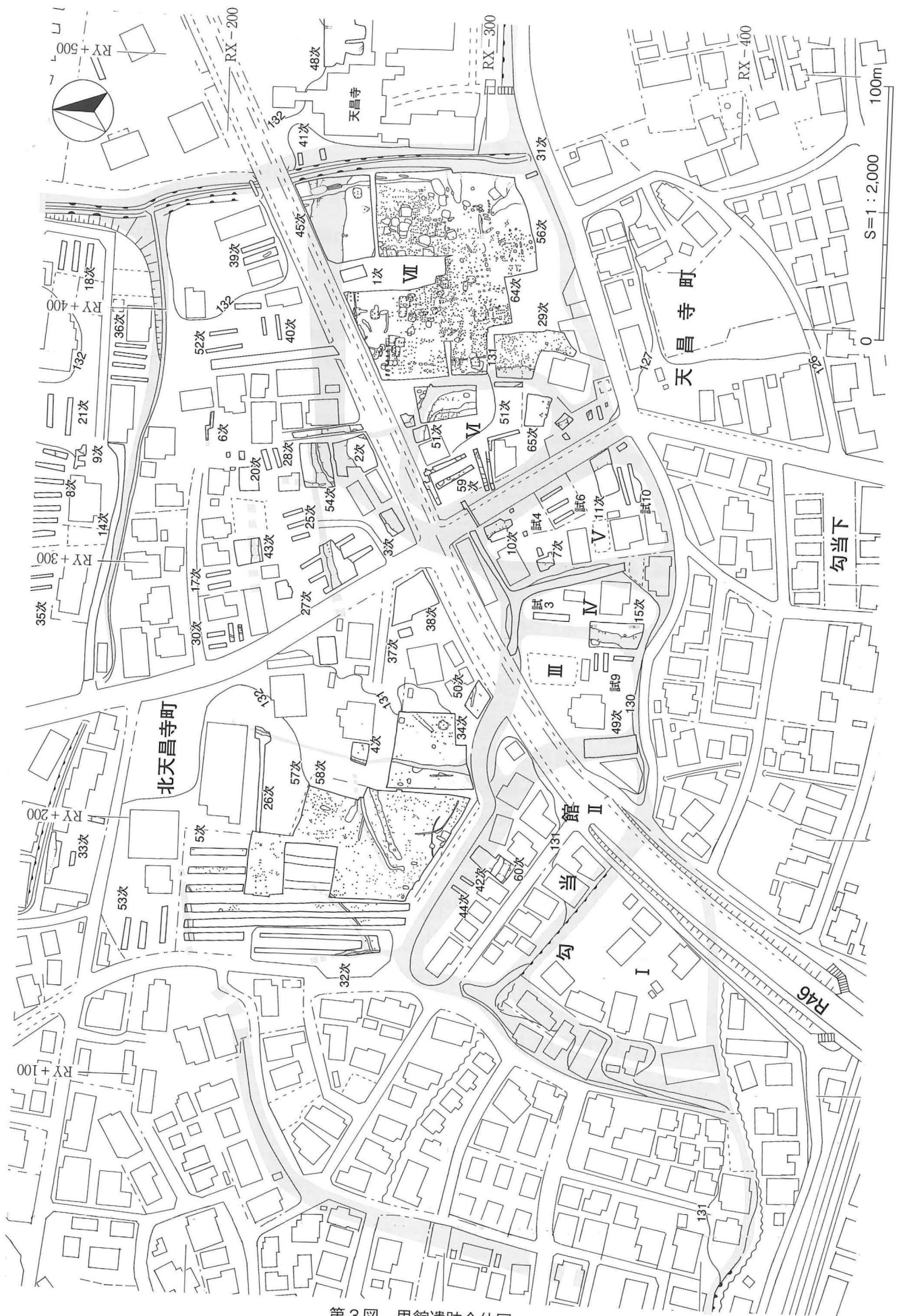
里館地区の中にはいくつか堀跡と考えられる地形が存在している。現在の天昌寺の西側には南北に用水路が流れており、この地区の東限の堀跡と推定される。この水路は北に150mで西にわかれ、やや屈曲しながら遺跡西限の水路につながっている。また、国道46号線と市道中屋敷町青山1丁目2号線(以下「市道」)の交差点から南の道路は周辺より一段低い地形で自然の谷地あるいは堀跡と考えられる部分である。このほかにも、堀跡の末端部分と思われる段丘崖の切込みが確認できる。一つは第29次調査の南西部で現在段丘崖を登る通路で、その北側延長上でSD300堀跡が検出されている。(第1・29次調査)。また、市道から段丘崖を西へ50m行った地点に地形の切り込みがあり「堀っこ」と呼ばれている。この北側でSD408堀跡が確認されている(第7次調査)。さらに西方約70mの地点は「小堀」と呼ばれており、かつてこのあたりから北西方向に細長く水田が存在していたことから、やはり堀跡の存在が考えられる。実際に北西延長部分の調査(第42・44次調査)で堀跡を確認している。

### 2. 過去の調査

里館遺跡の調査は、昭和32年の岩手大学の板橋源教授らによる旧国鉄客貨車区建設に伴う事前調査が契機である。これまで盛岡市教育委員会の調査は65次まで行われている。

第1次調査ではSD300・400の2条の堀跡の他、多数の掘立柱建物跡、竪穴建物跡が確認されている。堀跡のうちSD300は、南側の段丘崖の切り込みにつながり、里館地区の南西部を区画するものと考えられる。西側の市道が堀跡の名残と考えるならば、間に南北約60m、東西約40mの曲輪が想定される。SD300の内側(西側)には、4棟の掘立柱建物跡と3列の柱列跡、外側(東側)には、掘立柱建物跡24棟、礎石柱列1列、柱列8列、竪穴建物跡17棟、柵跡2条などが確認されている。SD300の東側では、桁行4～6間、梁間2～3間で、身舎内部に間仕切があり、庇や広縁をもつ主屋と考えられる建物、桁行4～5





第3図 里館遺跡全体図

間、梁間1～2間の長屋風の建物、桁行2～3間、梁間1～2間の小形の建物の3種類に大別できる。これらの遺構からは、陶磁器、土器、古銭、鉄製品、石製品などが出土している。15～16世紀陶磁器には瀬戸美濃の灰釉、鉄釉の陶磁器、青磁、白磁の破片などが出土している。古銭では皇宗通寶、元豊通寶、洪武通寶、永樂通寶などが出土している。

第2・3次調査では、第1次調査で確認されたSD 400堀跡の西の延長と考えられる部分が検出されている。この堀は、段丘崖からはなれて東西方向に掘られているもので、平坦部を南北に区画する堀である。里館地区を区画するものと考えられる。

第7次調査では、「ホリッコ」から北に走るSD 408堀跡の東肩を確認している。上層からは15～16世紀の明白磁皿破片の他、近世～近代の陶磁器類が出土している。

第29次調査では南北に走る堀跡を確認しており、これは第1次調査で確認されたSD 300堀跡の延長と考えられる。堀の東側からは掘立柱建物跡6棟、掘立柱列跡4列、竪穴建物跡1棟が発見されている。出土遺物としては、16世紀の瀬戸美濃皿の破片や16～17世紀の志野皿の破片などの陶磁器、皇宗通寶や永樂通寶などの古銭、鉄鏃、鉄釘、砥石が出土している。これらの遺構は、第1次調査で確認された堀跡や建物跡と一連のものと考えられる。

第34次調査では、第4次調査（昭和58年）の際に検出した溝跡の延長を確認している。また、溝跡の西側に同時期と考えられる柵列跡を1条、12世紀と考えられる竪穴建物跡を1棟、竪穴住居よりも古い掘立柱建物跡を1棟発見している。これらの遺構から、12世紀にかけてのかわらけ片数十点、瀬戸渥美の陶磁器片が数点出土している。

第45次調査では、東西に走る堀跡が2条並んで確認されており、これは第1次調査で確認されたSD 400堀跡の続きと考えられる。また、堀跡の南側に竪穴建物跡を3棟、土坑2基を確認している。

第54次調査では、第45次調査の続きと考えられる堀跡2条と溝跡2条が確認されている。南側の堀跡は第2次調査で確認されたSD 400堀跡の北端と考えられる。

第56次調査は里館地区の東端に位置し、これまでの調査で最も多くの竪穴建物跡や掘立柱建物跡と柱穴を確認している。竪穴建物跡は少なくとも5時期に重複しており、長期間使用されていたことが判明している。

第58・60次調査区は勾当館にあたる部分に位置し、第58次調査では里館遺跡の城館期としては最も古い時期になる、12世紀後半の溝と土塁で構成された虎口などの外郭施設や、それに伴う掘立柱建物跡が確認されている。第60次調査では勾当館の2条の堀跡を確認しており、堀跡の埋土中より13～14世紀の常滑甕の破片が出土している。

これまでの調査成果を概観すると、里館遺跡の曲輪の中でも時期差があり、曲輪Ⅰ～Ⅳの勾当館が里館よりも先行して12世紀後半には城館として機能し、13～14世紀まで主体を成していた可能性がある。一方、時代が下り15～16世紀になると主体を曲輪Ⅴ～Ⅶの里館へ移っていく様子が伺える。

次数	所在地	調査原因	面積 (㎡)	期 間	検出遺構
昭和 32 年	権現坂 17-2	客貨車区建設		1957.05.06 ~ 05.11	中世溝跡, 柱列, 古銭, 鉄滓
昭和 49 年	天昌寺町 222-2	保育園建設		1974.06.12 ~ 06.23	時期不詳溝跡
昭和 51 年	前九年一丁目	新幹線建設	4,600	1976.05.17 ~ 10.16	縄文後期竪穴住居跡 1 棟, 平安前期溝跡 1 条, 溝跡 25 条
1	天昌寺町 7-13,7-24	店舗新築	1,567	1981.07.28 ~ 11.17	中世堀跡 2 条, 溝跡 3 条, 掘立柱建物跡 28 棟, 柱列跡 12 列, 柵跡 2 列, 竪穴 17 棟, 土坑 11 基
試掘 1	天昌寺町 28-4	住宅増築	45	1981.10.27 ~ 10.31	遺構・遺物なし
2	北天昌寺町 149-1	共同住宅新築	510	1981.11.18 ~ 12.05	中世堀跡 1 条, 溝跡 1 条
3	北天昌寺町 150-4	店舗新築	43	1982.04.06 ~ 05.14	中世堀跡 1 条, 近世溝跡 1 条, 土坑 1 基
試掘 2	北天昌寺町 127-1	店舗新築	500	1982.04.07 ~ 04.17	平安時代土師器小片, 近世陶磁器小片数点
試掘 3	天昌寺町 424-4	店舗新築	45	1982.06.28	遺構・遺物なし
試掘 4	天昌寺町 420-9	貸事務所新築	8	1982.08.17	遺構・遺物なし
試掘 5	北天昌寺町 2-22	住宅増築	82	1982.09.02	遺構・遺物なし
試掘 6	天昌寺町 422-2	住宅新築	59	1983.05.13 ~ 05.14	遺構・遺物なし
4	北天昌寺町 13	住宅新築	48	1983.05.16 ~ 05.18	中世溝跡 1 条, 柱穴 9 口
試掘 7	北天昌寺町 1-6	店舗新築	227	1984.07.02 ~ 07.07	溝跡 3 条
試掘 8	北天昌寺町 125-1	店舗新築	37	1985.01.21	遺構・遺物なし
試掘 9	天昌寺町 426	物置新築	41	1985.07.15	遺構・遺物なし
5	北天昌寺町 10-1	福祉センター新築	798	1985.07.25 ~ 08.03	溝跡 2 条, 土坑 1 基, 柱穴 90 口
試掘 10	天昌寺町 421-3	住宅改築	59	1985.08.29 ~ 08.30	遺構・遺物なし
6	北天昌寺町 152-13	住宅増築	22	1986.09.06 ~ 09.22	溝跡 3 条
7	天昌寺町 420-10	住宅改築	61	1986.09.29 ~ 10.09	中世堀跡 1 条
8	北天昌寺町 153-55	住宅新築	220	1987.04.21 ~ 04.24	溝跡 1 条
9	北天昌寺町 4-2	住宅新築	23	1987.05.01 ~ 05.07	溝跡 1 条
10	天昌寺町 420-2	住宅改築	61	1987.06.02 ~ 06.05	中世堀跡 1 条
11	天昌寺町 21-2	駐車場造成	145	1987.06.13	中世堀跡 1 条
12	北天昌寺町 1-2	私道整備	61	1987.07.13 ~ 07.18	中世堀跡 1 条, 土坑 1 基
13	北天昌寺町 1-2	住宅新築	62	1987.09.14	遺構・遺物なし
14	北天昌寺町 154-3	私道整備	268	1987.11.13 ~ 11.16	遺構・遺物なし
15	天昌寺町 425-1,2	営業用	181	1988.04.11 ~ 04.25	竪穴建物跡 1 棟, 溝跡 2 条, 土坑 1 基, 掘立柱柱列跡 1 列
16	北天昌寺町 153-53,153-54	住宅新築	60	1988.04.11 ~ 04.12	遺構・遺物なし
17	北天昌寺町 152-34	営業用	23	1988.09.01	近代以降溝跡 4 条, 風倒木跡
18	盛岡市天昌寺町 143	営業用	112	1988.10.11 ~ 10.13	遺構・遺物なし
19	盛岡市天昌寺町 419-4	市道整備	33	1988.10.18 ~ 10.21	中世堀跡
20	盛岡市北天昌寺町 2-11	個人住宅	6	1989.11.27	遺構・遺物なし
21	北天昌寺町 3-4	事業営業	134	1990.10.22 ~ 10.23	溝跡 1 条
22	天昌寺町 246-4,274,248-1	住宅新築	11	1990.12.19 ~ 12.20	中世堀跡 1 条, 土坑 1 基
23	盛岡市北天昌寺町 4-15	個人住宅	30	1991.05.16	遺構・遺物なし
24	盛岡市北天昌寺町 2-8	水道敷設	50	1991.05	遺構・遺物なし
25	北天昌寺町 151-1	住宅改築	49	1991.09.09	近世以降陶磁器
26	北天昌寺町 8-8,10,11,12,13	店舗増築	91	1992.04.13 ~ 04.15	縄文時代土坑 1 基, 平安遺構溝跡 1 条, 柱穴 2 口

第 1 表 里館遺跡調査成果一覧①

次数	所在地	調査原因	面積(m <sup>2</sup> )	期 間	検出遺構
27	北天昌寺町 151-1	住宅新築	218	1992.04.27 ~ 05.07	中近世大溝跡 1 条
28	北天昌寺町 142-17	個人住宅	31	1992.06.09	遺構・遺物なし
29	天昌寺町 246-1	営業用	384	1992.06.15 ~ 07.17	中近世堀跡 1 条, 掘立柱建物跡 6 棟, 柱列跡 4 列, 柱穴 210 口, 竪穴建物跡 1 棟, 土坑 6 基
30	北天昌寺町 152-41	店舗新築	27	1993.01.12	遺構・遺物なし
31	天昌寺町 245-1	住宅新築	30	1993.04.15 ~ 04.26	中近世堀跡 1 条, 護岸跡 1 ヶ所, 近世遺物包含層
32	北天昌寺町 10-5,11-2,12-2	店舗新築	120	1993.04.19 ~ 04.23	古代以降溝跡 1 条, 時期不明溝跡 1 条、柱穴 3 口
33	北天昌寺町 7-1	個人住宅	73	1994.03.17	用水堰 1 条
34	北天昌寺町 16-1 他	店舗新築	1,094	1994.06.06 ~ 07.04	掘立柱建物跡 1 棟, 竪穴建物跡 2 棟, 溝跡 2 条, 柵列跡 1 条, 土坑 2 基, 柱穴数十口, 戦時中防空壕, 近現代室跡 1 基
35	北天昌寺町 153-1	事業営業	123	1995.05.17	遺構・遺物なし
36	北天昌寺町 143-7,143-12	個人住宅	82	1995.06.06 ~ 06.07	遺構・遺物なし
37	北天昌寺町 15-3	住宅増築	26	1995.06.14	古代柱穴 2 口
38	北天昌寺町 15-8	駐車場造成	337	1995.10.17 ~ 11.21	遺構・遺物なし
39	北天昌寺町 132-34,132-35	教会新築	72	1995.11.06	溝跡 1 条
40	北天昌寺町 142-15,144-10,144-11	事務所新築	39	1996.04.18	柱穴 2 口
41	天昌寺町 224	擁壁新築	24	1996.07.01 ~ 07.08	堀跡 1 条
42	北天昌寺町 28-20	駐車場造成	60	1996.09.09	溝跡 1 条
43	北天昌寺町 152-11	住宅新築	137	1996.10.14 ~ 10.16	堀跡 1 条
44	北天昌寺町 17-8,9	事務所新築	22	1996.12.11	中世堀跡 1 条
45	天昌寺町 7-13	店舗新築	695	1998.06.08 ~ 07.03	中世竪穴建物跡 3 棟, 土坑 2 基, 堀跡 2 条, 柱穴 4 口, 近世溝 7 条
46	北天昌寺町 9-3,9-6	住宅改築	68	1998.09.01	遺構・遺物なし
47	大新町 132-6,50	住宅新築	64	1998.11.26	古代以降溝跡 1 条
48	天昌寺町 6-16	庫裡増築	325	1999.04.12 ~ 04.16	中近世溝跡 2 条、柱穴 1 口
49	天昌寺町 417-3	住宅増築	119	1999.06.24 ~ 06.28	遺構・遺物なし
50	北天昌寺町 15-12,16-4	駐車場造成	79	2000.03.13 ~ 03.14	溝跡 1 条, 柱穴 5 口
51	天昌寺町 247-1,249-2	住宅新築	117	2001.06.08 ~ 06.12	中世堀跡 1 条, 中世柱穴 2 口
52	北天昌寺町 2-6	事務所新築	47	2003.12.24	遺構・遺物なし
53	北天昌寺町 7	住宅新築	69	2005.04.28	遺構・遺物なし
54	北天昌寺町 142-18	住宅新築	513	2006.06.05 ~ 06.13	中世堀跡 4 条
55	北天昌寺町 4-19	土地売買	14	2007.03.05	遺構・遺物なし
56	天昌寺町 242-5,245-1	供養塔建設・駐車場整備	2,130	2011.08.22 ~ 11.25	縄文陥し穴状土坑 7 基, 古代竪穴住居跡 1 棟、中世竪穴建物跡 21 棟, 土坑 50 基, 中近世掘立柱建物跡 19 棟, 柱穴 813 口, 溝跡 3 条, 近世竪穴跡 3 基, 沢状地形 4 箇所
57(試掘)・58	北天昌寺町 10-1,11-1,12-1,16-2,16-3	宅地造成	2,209	2013.05.27 ~ 05.28 2013.10.15 ~ 12.26	縄文陥し穴状土坑 1 基, 中世掘立柱建物跡 10 棟, 掘立柱列跡 18 列, 柵列 1 列, 竪穴建物跡 1 棟, 溝跡 6 条, 江戸時代土坑 1 基, 溝跡 2 条
59	天昌寺町 249-2	店舗併設住宅新築	91	2013.10.09	中世堀跡 1 条, 溝跡 1 条, 竪穴建物跡 5 棟, 柱穴 28 口, 土坑 7 基
60	北天昌寺町 17-6,28-20	社屋新築	105	2016.07.04 ~ 08.01	古代~中世堀跡 2 条, 土坑 2 基, 柱穴 2 口, 柱穴群 1 群
61	北天昌寺町 8-10	店舗建替	316	2017.03.13 ~ 03.16	縄文時代陥し穴状土坑 1 基, 古代以降柱穴 1 口
62	天昌寺町 13-1	住宅新築	83	2017.05.26	中近世溝跡 2 条, 竪穴建物跡 6 棟, 柱穴 16 口, 土坑 5 基, カマド状遺構 1 基
63(試掘)・64	天昌寺町 242-5,242-32,245-1,245-6	保育園新築	920	2017.09.06 ~ 09.07 2018.04.02 ~ 06.22	中世竪穴建物跡 6 棟, 堀跡 1 条, 中近世掘立柱建物跡 22 棟, 溝跡 1 条, 土坑 12 基, 柱穴 478 口, 竪穴跡 3 棟
65	天昌寺町 247-4,247-5	住宅新築	137	2018.06.06 ~ 06.26	中世堀跡 1 条, 近世柱穴 8 口

第 2 表 里館遺跡調査成果一覽②

### 3. 第64次調査

**調査経過** 当該区域について事業主体者である社会福祉法人天昌寺福祉会から、保育園建設に係る事前協議があり、平成29年6月29日付けで発掘届が提出された。これを受けて同年9月6日～7日にかけてトレンチによる試掘調査を行った。その結果、計画区域全域において中世の竪穴建物跡や柱穴、溝跡などが確認され、工事着手前の緊急発掘調査が必要となった。平成30年4月2日、社会福祉法人天昌寺福祉会と盛岡市教育委員会教育長との間で「埋蔵文化財に関する協定書」を締結し、遺跡の学び館が調査を行った。調査期間は平成30年4月3日～6月22日、調査面積は920㎡である。

### 4. 遺構の検出状況

第64次調査区は遺跡の南端に位置し、北から南にかけての緩やかな斜面となっている。標高値は130m前後である。遺構は黒褐色シルト～暗褐色砂質土層上面で検出した。

**検出遺構** 確認された遺構は、中世の竪穴建物跡5棟、堀跡1条、中世～近世の掘立柱建物跡22棟、柱列跡8列、土坑12基、柱穴478口、近世の竪穴状遺構3棟、溝跡1条、である。

### 5. 中世の遺構

**竪穴建物跡** 竪穴建物跡は調査区全域で確認している。出入り口部分は南北のどちらかに付けられている例が多い。また、調査区西側で確認したSI323～325は重複関係から少なくとも2時期に渡り、竪穴建物跡が造り替えられている。

遺構番号	位置	規模 (m)		主軸方向	重複関係	埋土	柱穴 (深さ : m)	出土遺物
		一辺	深さ					
SI323	I6-R24	2.86	0.04～0.40	N3°W	SI324を切る	黒褐色土	P1-0.70, P2-0.42, P3-0.32, P4-0.16, P5-0.20, P6-0.22, P7-0.54, P8-0.58	
SI324	I6-Q25	3.38	0.04～0.26	N2°W	SI323に切られる。 SI325を切る	黒褐色土	P1-0.40, P2-0.62, P3-0.37, P4-0.36, P5-0.47, P6-0.58, P7-0.36, P8-0.25, P9-0.31	
SI325	I6-P25	3.73	0.05～0.19	N14°E	SI324に切られる	黒褐色土	P1-0.62, P2-0.31, P3-0.55, P4-0.35, P5-0.22, P6-0.21, P7-0.40, P8-0.60, P9-0.44, P10-0.44, P11-0.53	
SI326	H6-B1	4.41～6.52	0.04～0.12	N3°E	SB326～328に切られる	黒褐色土	P1-0.18, P2-0.08, P3-0.22, P4-0.21, P5-0.06, P6-0.56, P7-0.25, P8-0.39, P9-0.39, P10-0.30, P11-0.28, P12-0.12, P13-0.25, P14-0.18, P15-0.06, P16-0.04, P17-0.21, P18-0.40, P19-0.38	かわらけ 鉄釘 火打石
SI327	H6-G18	3.1	0.16～0.25	N2°W	-	黒褐色土	P1-0.06, P2-0.06, P3-0.26, P4-0.28, P5-0.21,	
SI328	H6-H4	2.52～3.60	0.12～0.38	N2°W	-	黒褐色土	P1-0.40, P2-0.14, P3-0.20, P4-0.48	

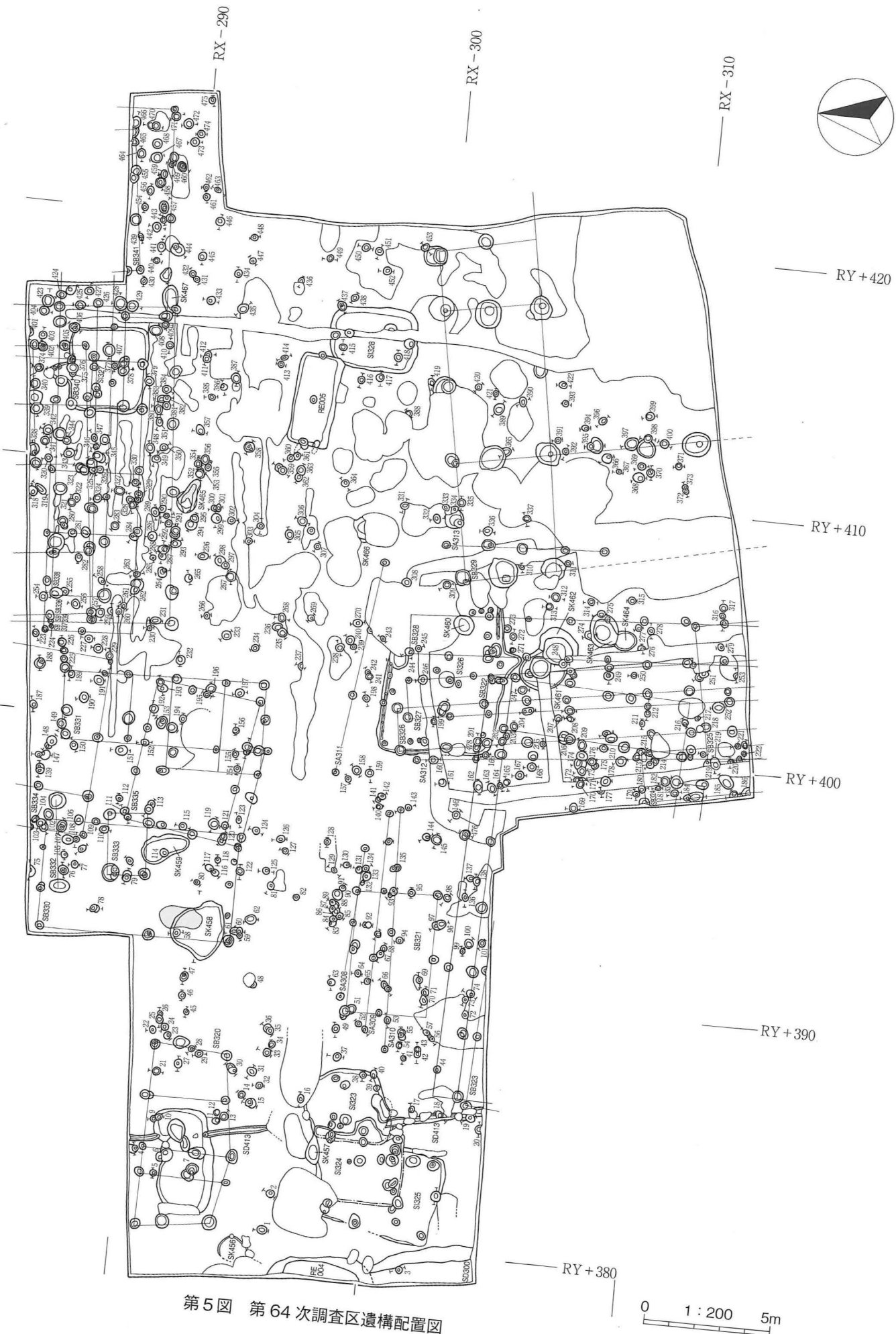
第3表 竪穴建物跡一覧

遺構番号	位置	平面形	規模 (m)			備考
			長軸	短軸	深さ	
RE004	I6-Q24	方形か	3.80	0.70以上	0.42	SD300を切る。
RE005	H6-G23	長方形	3.65	1.59	1.22	

第4表 竪穴跡一覧



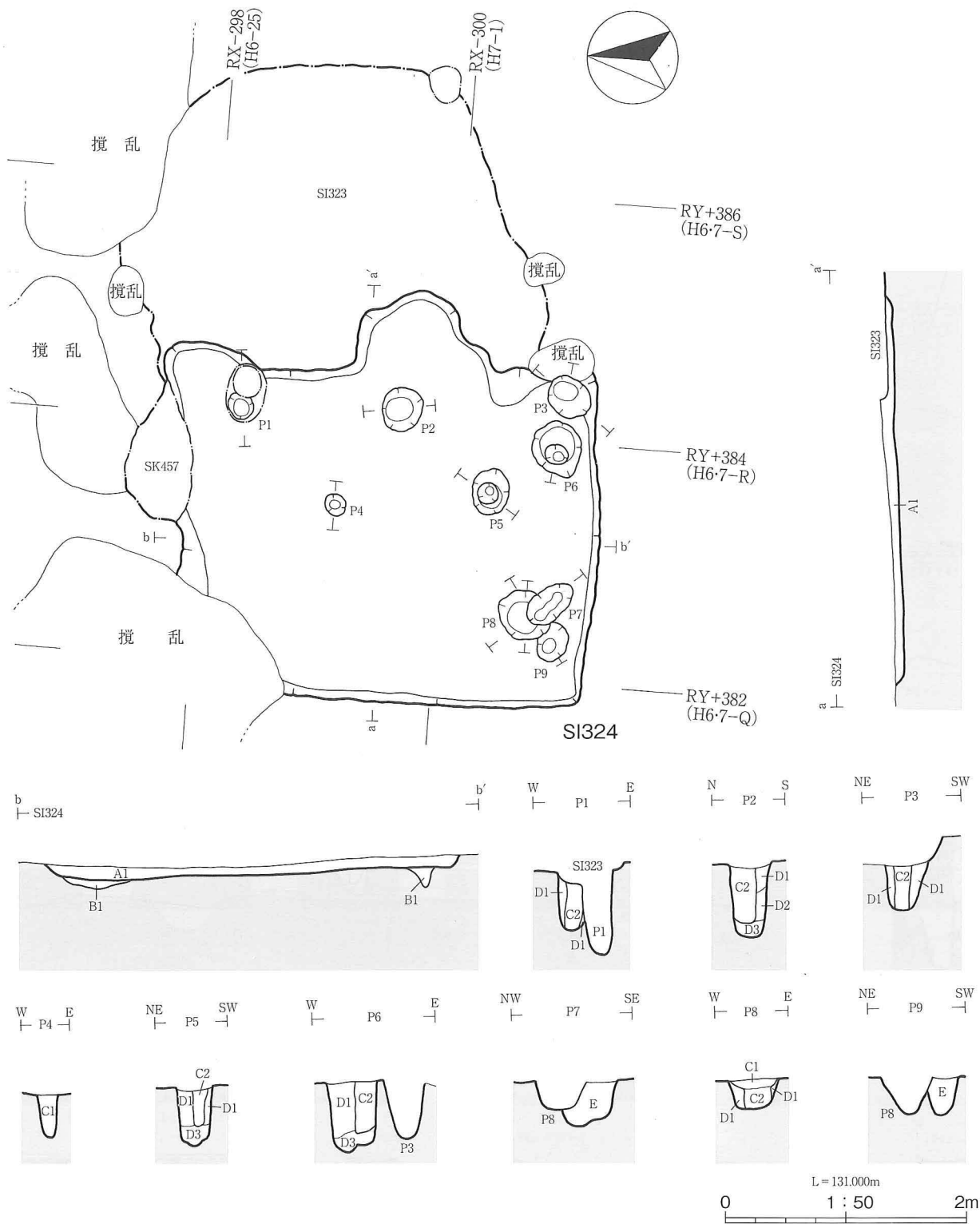
第4図 第64次調査区全体図



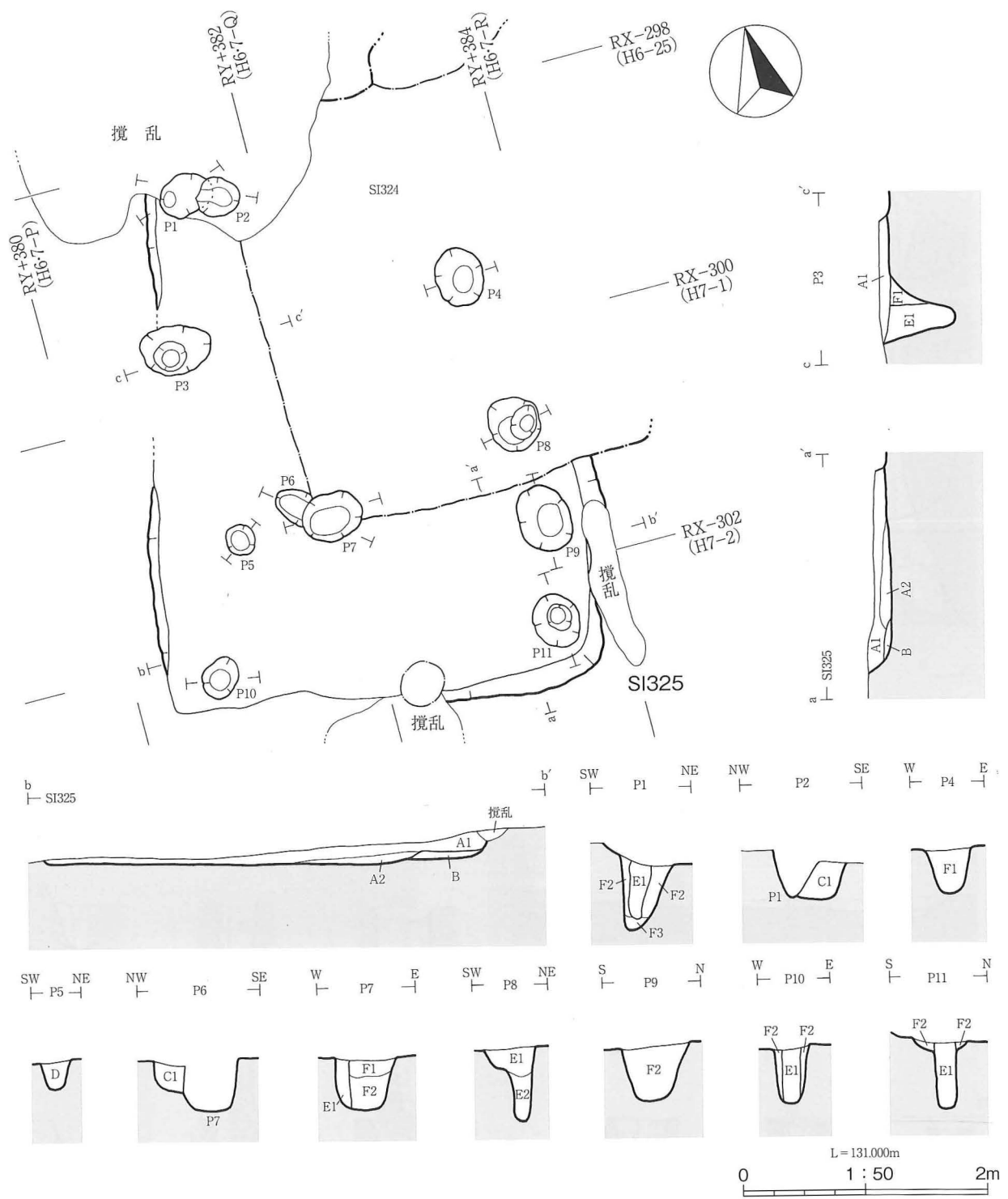
第5図 第64次調査区遺構配置図



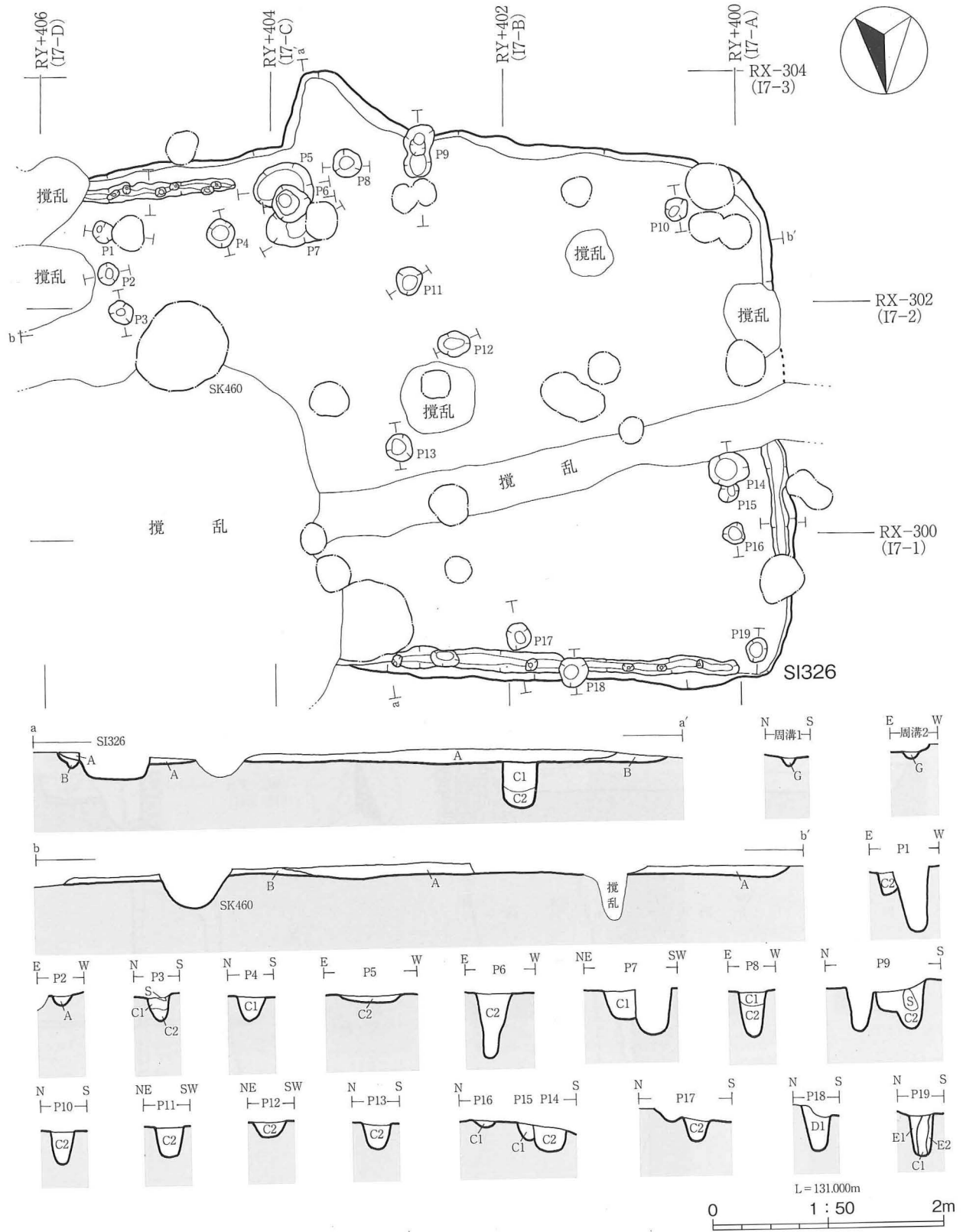




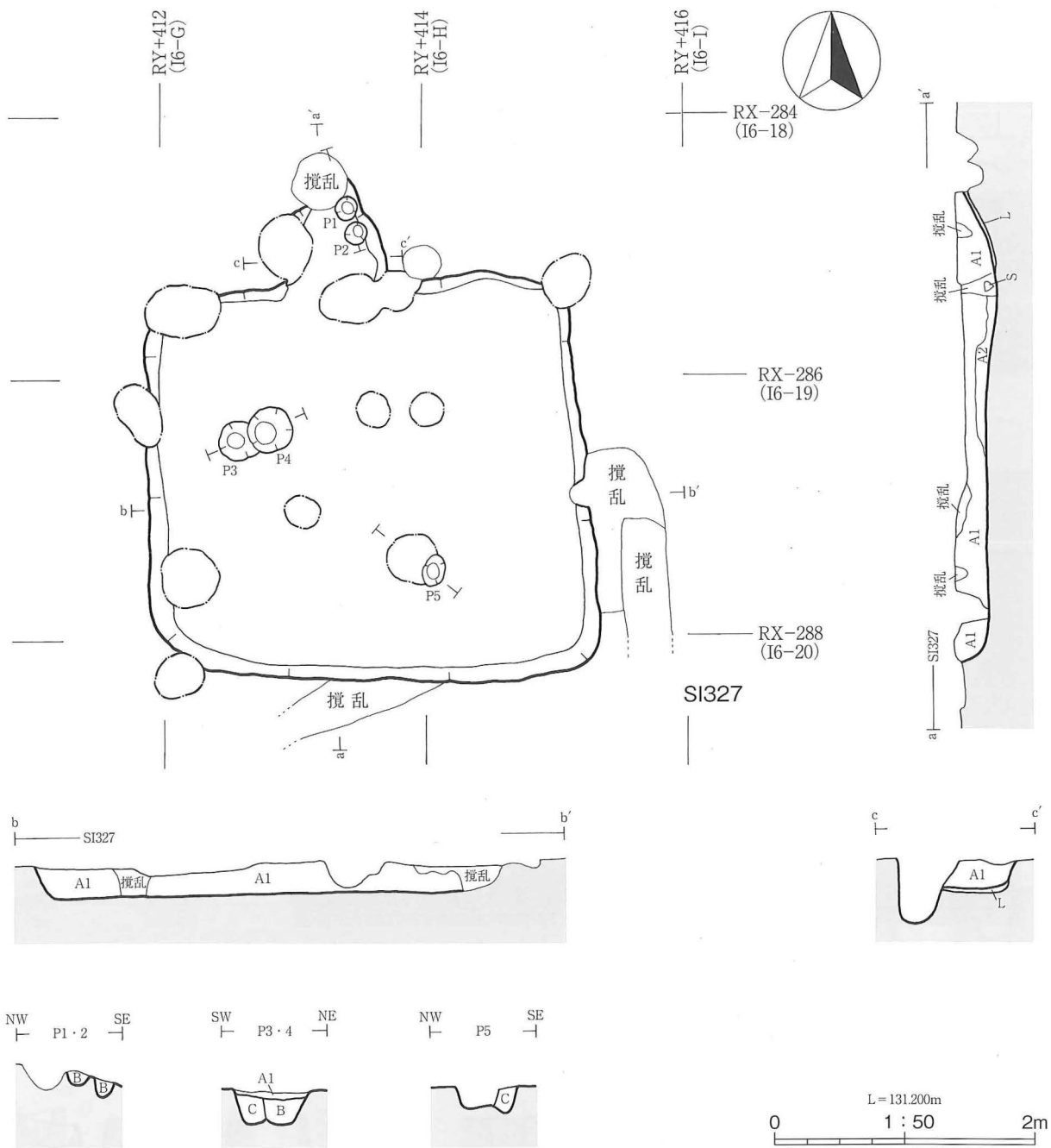
第7图 SI324 竖穴建物跡



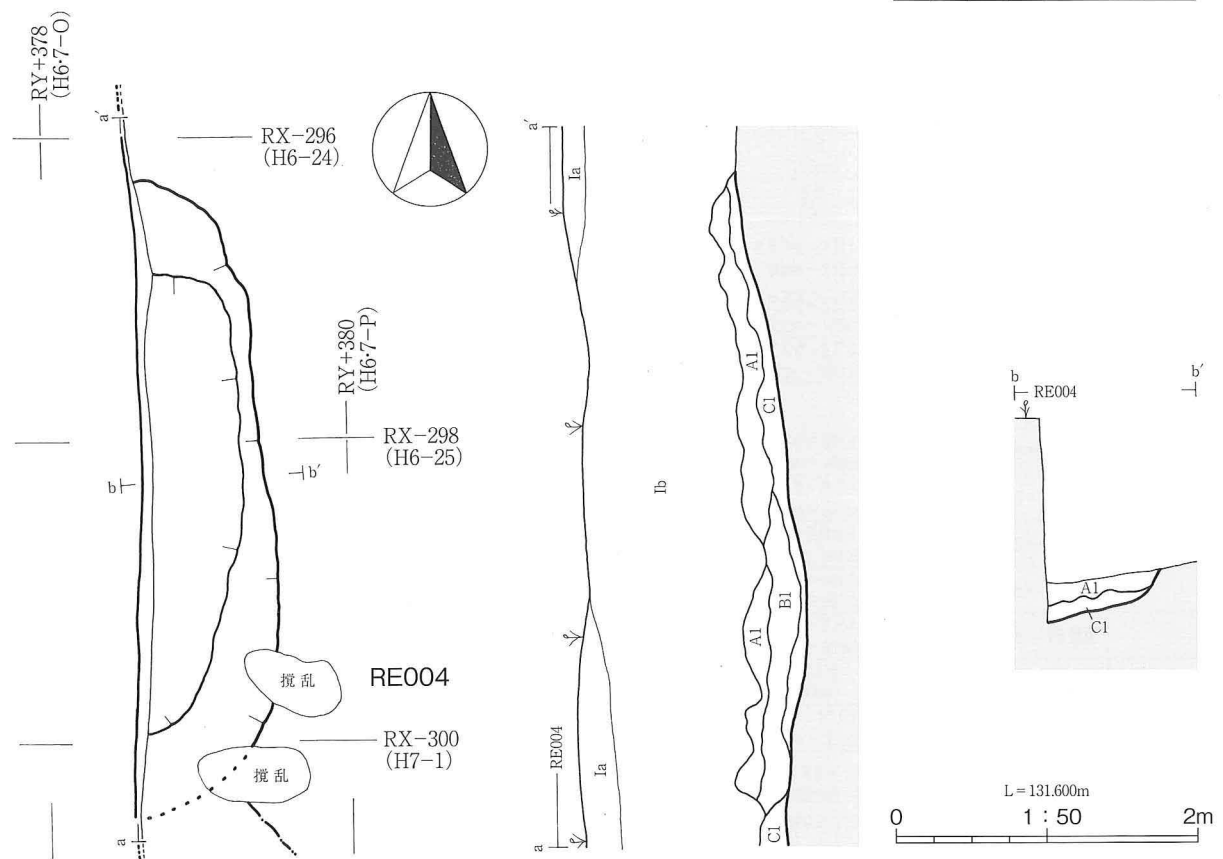
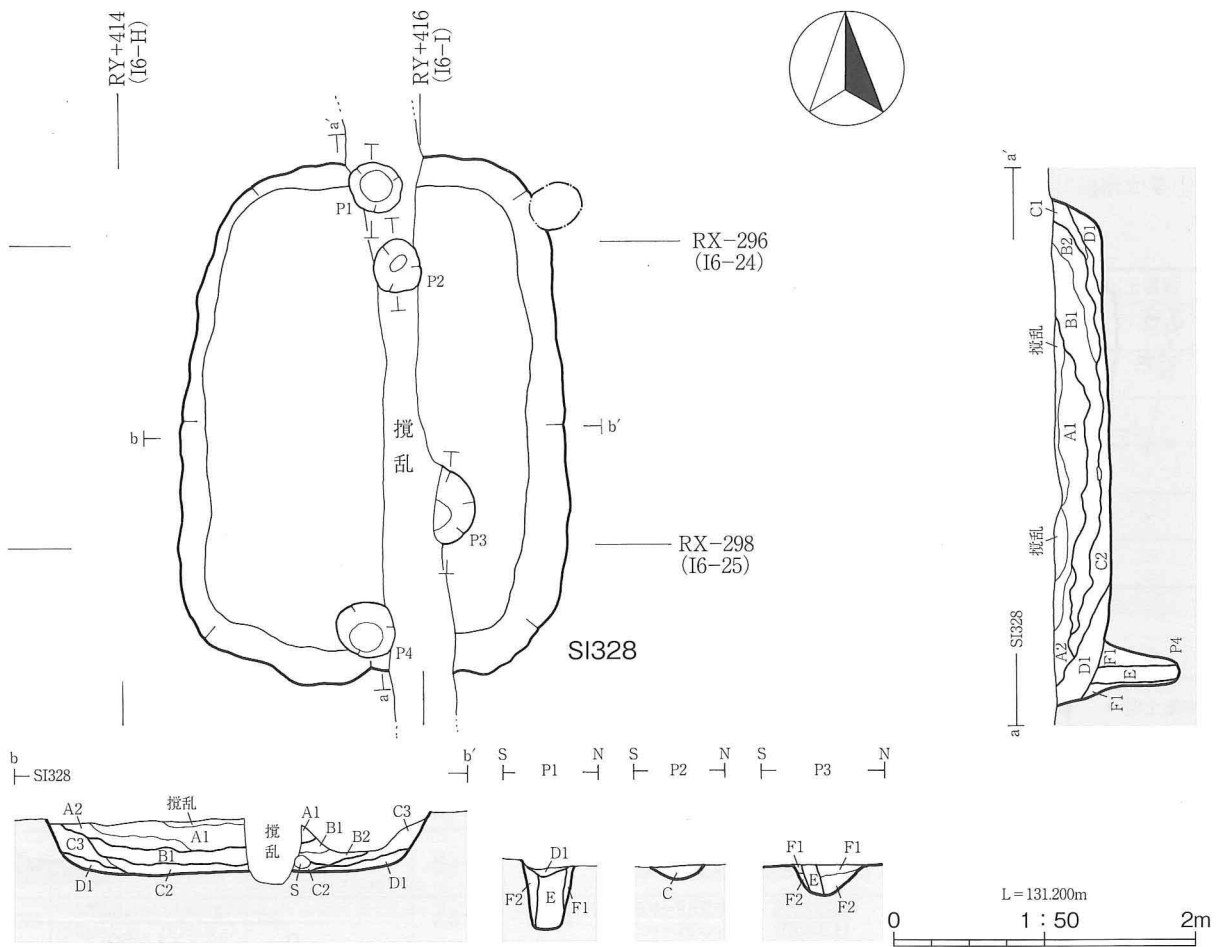
第8图 SI325 豎穴建物跡



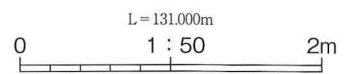
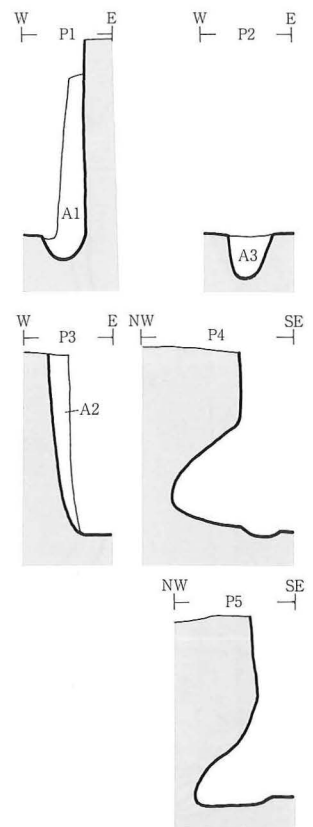
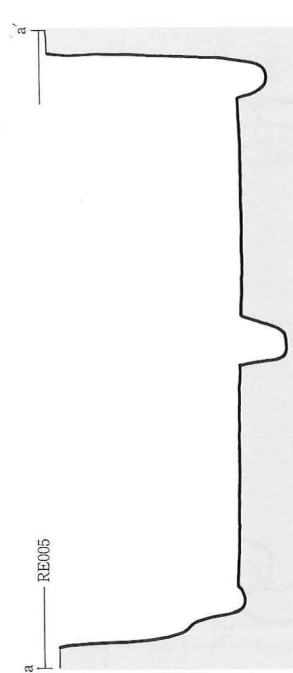
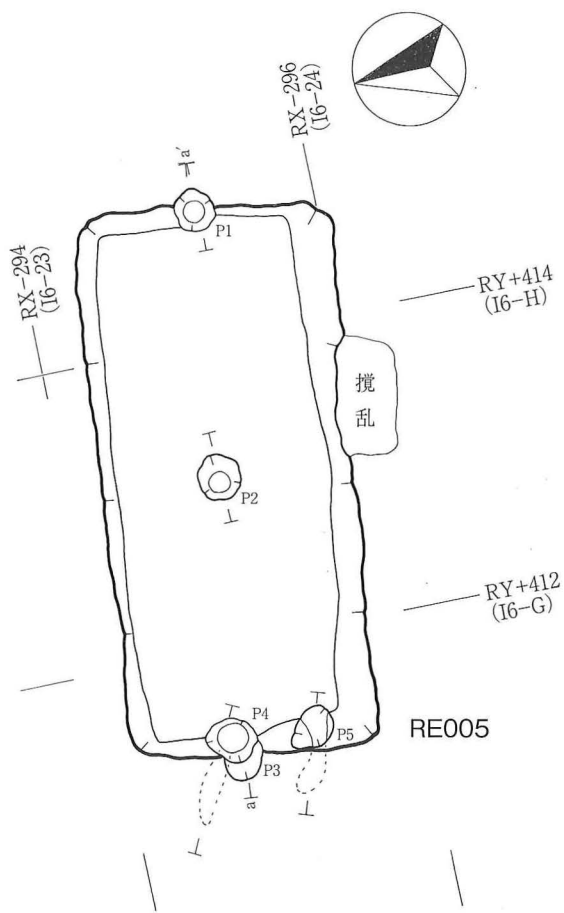
第9圖 SI326 豎穴建物跡



第 10 图 SI327 竖穴建物跡



第 11 図 SI328 豎穴建物跡, RE004 豎穴跡



第 12 図 RE005 豎穴跡

## 6. 中～近世の遺構

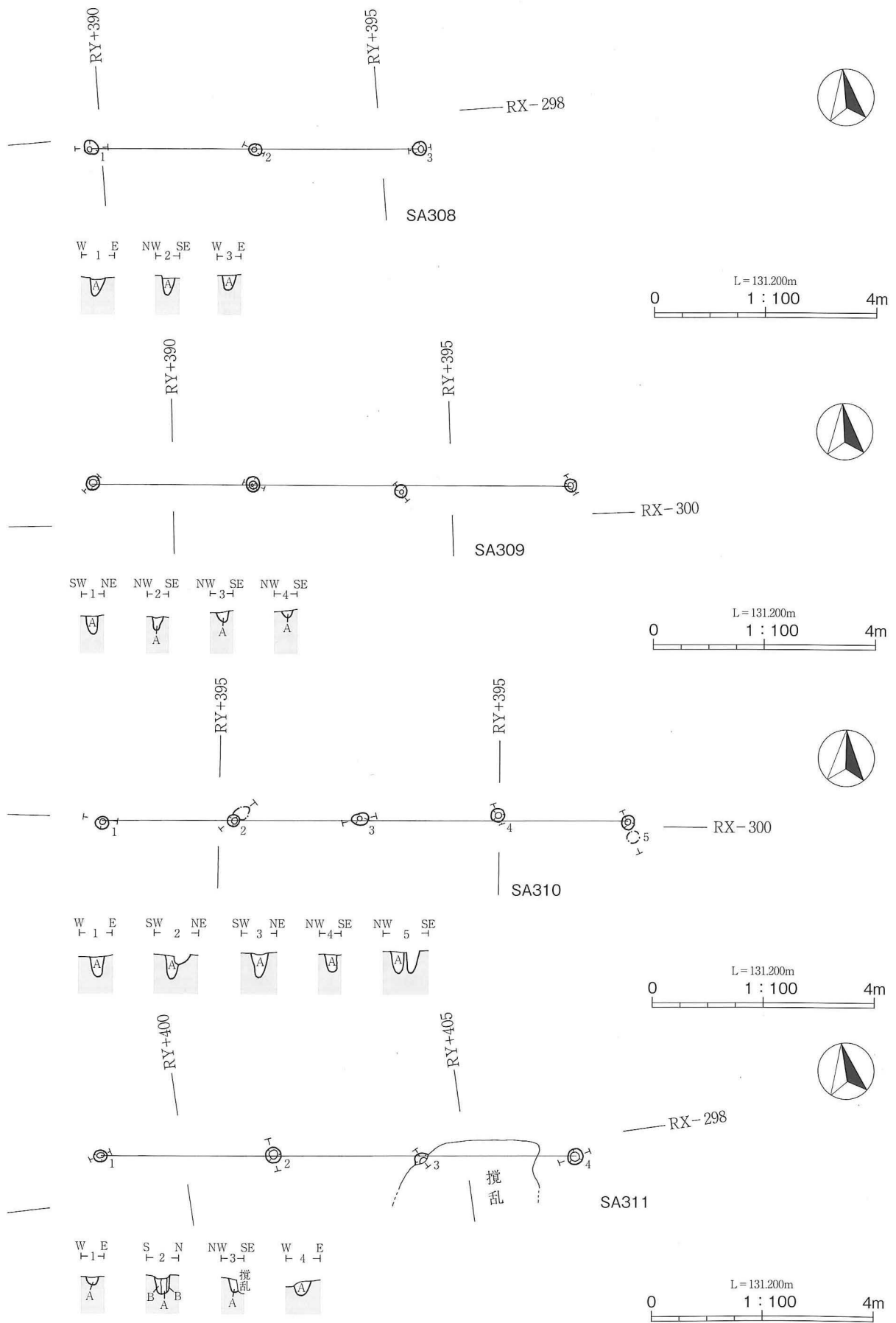
柱列跡 柱列跡は6棟確認された。埋土は黒色土が主体となるものが多い。規模等については第3表にまとめた。  
掘立柱建物跡 掘立柱建物跡は22棟確認された。埋土は黒色土を主体とするものが多い。調査区北部に遺構が集中している。規模等については第4表にまとめた。

遺構名	桁行	棟方向	主軸方向	柱間寸法	柱穴規模	時期	出土遺物
SA308	2間 (595cm)	E4°S	東西棟	9尺7寸 (595cm)	径 25～30cm 深 22～36cm	15～16世紀	
SA309	3間 (855cm)	E1°S	東西棟	8尺9寸～9尺9寸 (270cm～300cm)	径 25～30cm 深 12～38cm	15～16世紀	
SA310	4間 (940cm)	ほぼ東西	東西棟	7尺4寸～8尺3寸 (225cm～250cm)	径 25～30cm 深 34～46cm	15～16世紀	
SA311	3間 (850cm)	E8°S	東西棟	8尺9寸～10尺2寸 (270cm～310cm)	径 25～30cm 深 18～35cm	15～16世紀	
SA312	6間 (1265cm)	N7°W	南北棟	6尺4寸～7尺8寸 (195cm～235cm)	径 30～50cm 深 11～41cm	15～16世紀	
SA313	4間 (620cm)	N3°W	南北棟	4尺1寸～5尺9寸 (125cm～180cm)	径 25～40cm 深 14～57cm	15～16世紀	

第5表 柱列跡一覧

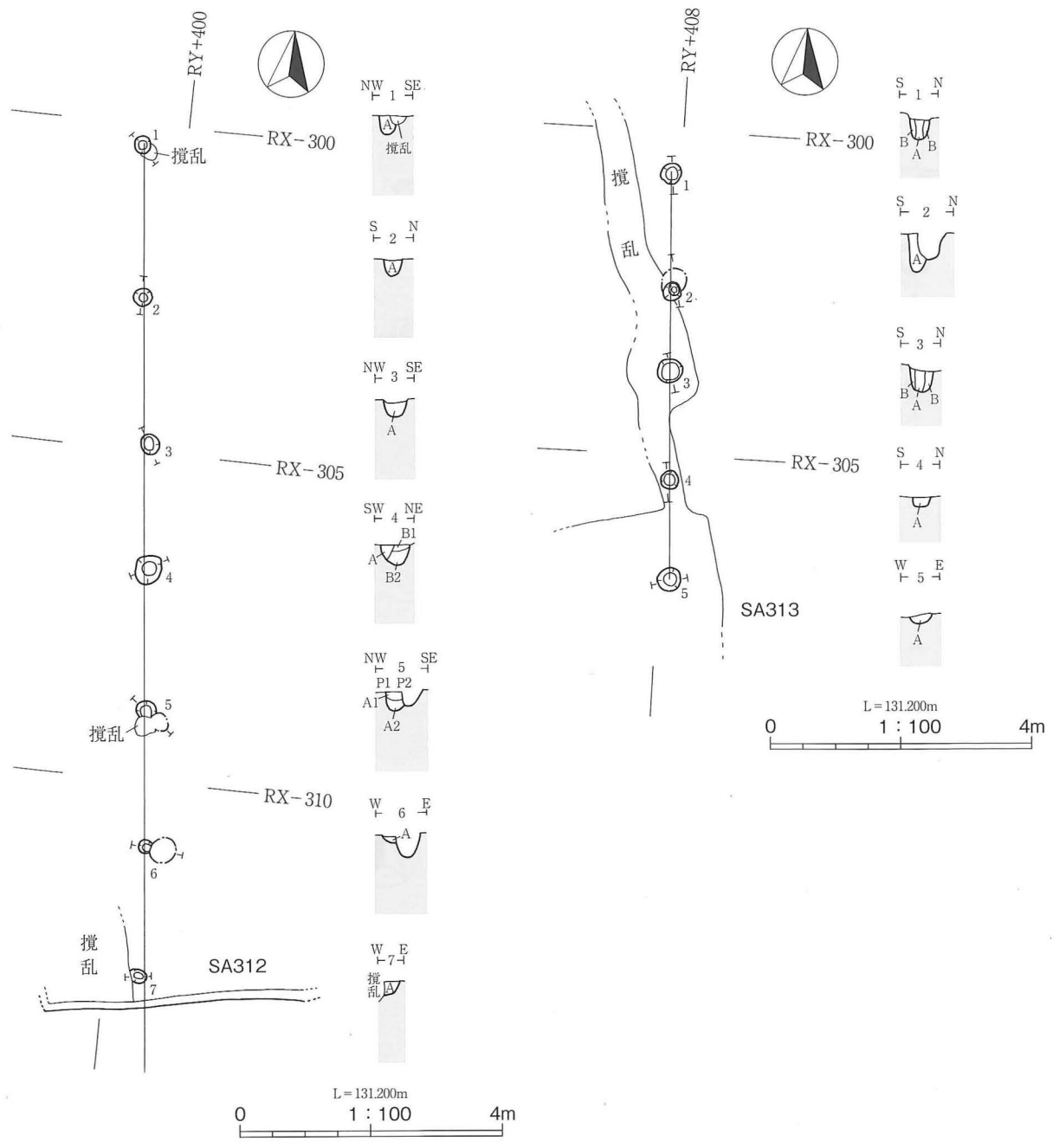
遺構名	規模			棟方向	主軸方向	柱間寸法		柱穴規模	時期	出土遺物
	桁行	梁間	庇			桁行	梁間			
SB320	4間 (710cm)	2間 (350cm)	-	ほぼ東西	東西棟	3尺3寸～7尺3寸 (100cm～220cm)	3尺3寸～10尺2寸 (100cm～310cm)	径 30～60cm 深 11～57cm	18世紀	肥前系緑釉皿 磁石
SB321	3間 (480cm)	2間 (310cm)	-	ほぼ東西	東西棟	7尺4寸～8尺3寸 (225cm～250cm)	4尺6寸～5尺8寸 (140cm～175cm)	径 30～40cm 深 18～48cm	15～16世紀	
SB322	7間 (1665cm)	3間 (710cm)	2面庇 北(1640×100cm) 南(80以上×110cm)	E4°S	東西棟	3尺6寸～11尺4寸 (110cm～345cm)	7尺3寸～8尺3寸 (220cm～250cm)	径 25～55cm 深 19～65cm	15～16世紀	磁石
SB323	3間以上 (540cm以上)	1間以上 (70cm以上)	不明	E3°S	東西棟	8尺9寸～9尺2寸 (270cm～280cm)	2尺3寸以上 (70cm以上)	径 30～45cm 深 39～47cm	15～16世紀	
SB324	3間以上 (420cm以上)	1間 (200cm)	不明	N10°W	南北棟	6尺6寸～6尺9寸 (200cm～210cm)	6尺3寸～6尺6寸 (190cm～200cm)	径 30～65cm 深 22～36cm	15～16世紀	
SB325	3間 (535cm)	1間以上 (185cm以上)	不明	W11°S	東西棟	4尺6寸～6尺6寸 (140cm～200cm)	6尺1寸以上 (185cm以上)	径 25～35cm 深 18～29cm	15～16世紀	
SB326	9間以上 (1345cm以上)	1間 (165cm)	-	N10°W	南北棟	5尺1寸～6尺1寸 (155cm～185cm)	5尺6寸 (170cm)	径 25～45cm 深 25～48cm	16世紀以降	
SB327	9間以上 (1320cm以上)	1間 (150cm)	-	N10°W	南北棟	5尺1寸～6尺1寸 (155cm～185cm)	5尺 (150cm)	径 25～40cm 深 17～61cm	16世紀以降	
SB328	9間以上 (1310cm以上)	1間 (150cm)	-	N4°W	南北棟	4尺8寸～5尺4寸 (145cm～165cm)	5尺 (150cm)	径 25～40cm 深 14～53cm	16世紀以降	
SB329	6間 (1680cm)	3間 (595cm)	2面庇 北(1285×380cm) 南推定(1630×320cm)	W9°S	東西棟	6尺6寸～11尺1寸 (200cm～335cm)	6尺3寸～7尺1寸 (190cm～215cm)	径 60～120cm 深 7～87cm	17世紀前葉	古唐津丸皿 寛永通寶(古) 銅製裝飾品
SB330	3間 (770cm)	3間 (435cm)	-	ほぼ南北	南北棟	6尺3寸～10尺6寸 (190cm～320cm)	4尺5寸～5尺3寸 (135cm～160cm)	径 25～45cm 深 11～57cm	15～16世紀	
SB331	4間 (795cm)	2間 (255cm)	1面庇 380×100cm	ほぼ南北	南北棟	5尺～8尺6寸 (150cm～260cm)	2尺5寸～5尺9寸 (75cm～180cm)	径 25～55cm 深 11～67cm	16世紀	鐸銭
SB332	なし	1間 (335cm)	-	W5°S	東西棟	11尺1寸 (335cm)	-	径 65～80cm 深 28～36cm	18世紀	肥前京焼風皿
SB333	1間 (255cm)	1間 (165cm)	-	ほぼ東西	東西棟	7尺6寸～8尺4寸 (230cm～255cm)	4尺6寸～5尺4寸 (140cm～165cm)	径 35～65cm 深 25～52cm	18世紀	
SB334	3間 (690cm)	2間以上 (320cm以上)	-	E4°S	東西棟	5尺3寸～10尺6寸 (160cm～320cm)	6尺4寸～6尺9寸 (195cm～210cm)	径 20～45cm 深 10～50cm	15～16世紀	球状鉄製品
SB335	3間 (545cm)	3間 (385cm)	1面庇 390×85cm	E9°S	東西棟	5尺8寸～6尺9寸 (175cm～210cm)	3尺～5尺9寸 (90cm～180cm)	径 25～45cm 深 14～56cm	15～16世紀	
SB336	5間 (1500cm)	2間以上 (240cm以上)	不明	W7°S	東西棟	5尺6寸～8尺6寸 (170cm～260cm)	4尺5寸～6尺8寸 (135cm～205cm)	径 30～65cm 深 15～41cm	15～16世紀	
SB337	4間 (900cm)	2間 (355cm)	1面庇 190×280cm	W2°S	東西棟	6尺3寸～9尺2寸 (190cm～280cm)	4尺5寸～7尺1寸 (135cm～215cm)	径 20～55cm 深 17～48cm	15～16世紀	
SB338	6間以上 (1230cm以上)	2間以上 (340cm以上)	不明	W4°S	東西棟	6尺8寸～7尺6寸 (205cm～230cm)	6尺6寸 (200cm)	径 25～60cm 深 13～56cm	15～16世紀	
SB339	6間 (1350cm)	3間以上 (575cm以上)	不明	W4°S	東西棟	4尺3寸～8尺9寸 (130cm～270cm)	5尺1寸～10尺6寸 (155cm～320cm)	径 20～55cm 深 20～44cm	15～16世紀	
SB340	5間 (1165cm)	2間以上 (540cm以上)	2面庇 南(810×160cm) 西(360以上×180cm)	W2°S	東西棟	5尺9寸～6尺3寸 (180cm～190cm)	6尺6寸 (200cm)	径 30～55cm 深 15～67cm	15～16世紀	
SB341	3間 (540cm)	1間以上 (55cm以上)	不明	W8°S	東西棟	5尺6寸～6尺6寸 (170cm～200cm)	1尺8寸以上 (55cm以上)	径 30～45cm 深 16～45cm	15～16世紀	

第6表 掘立柱建物跡一覧

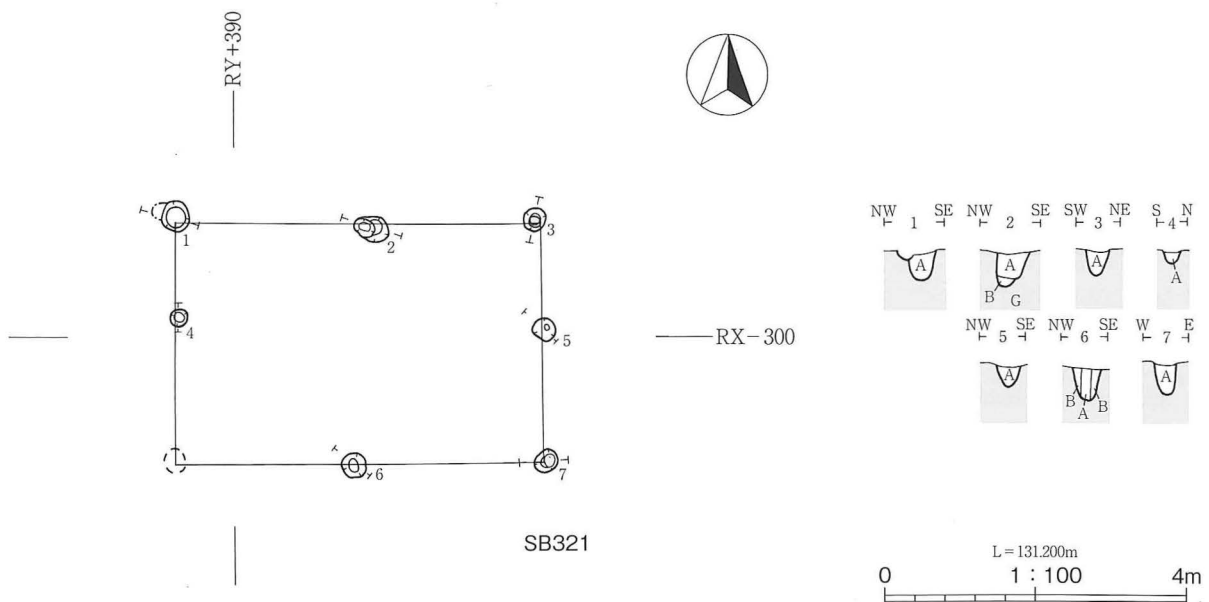
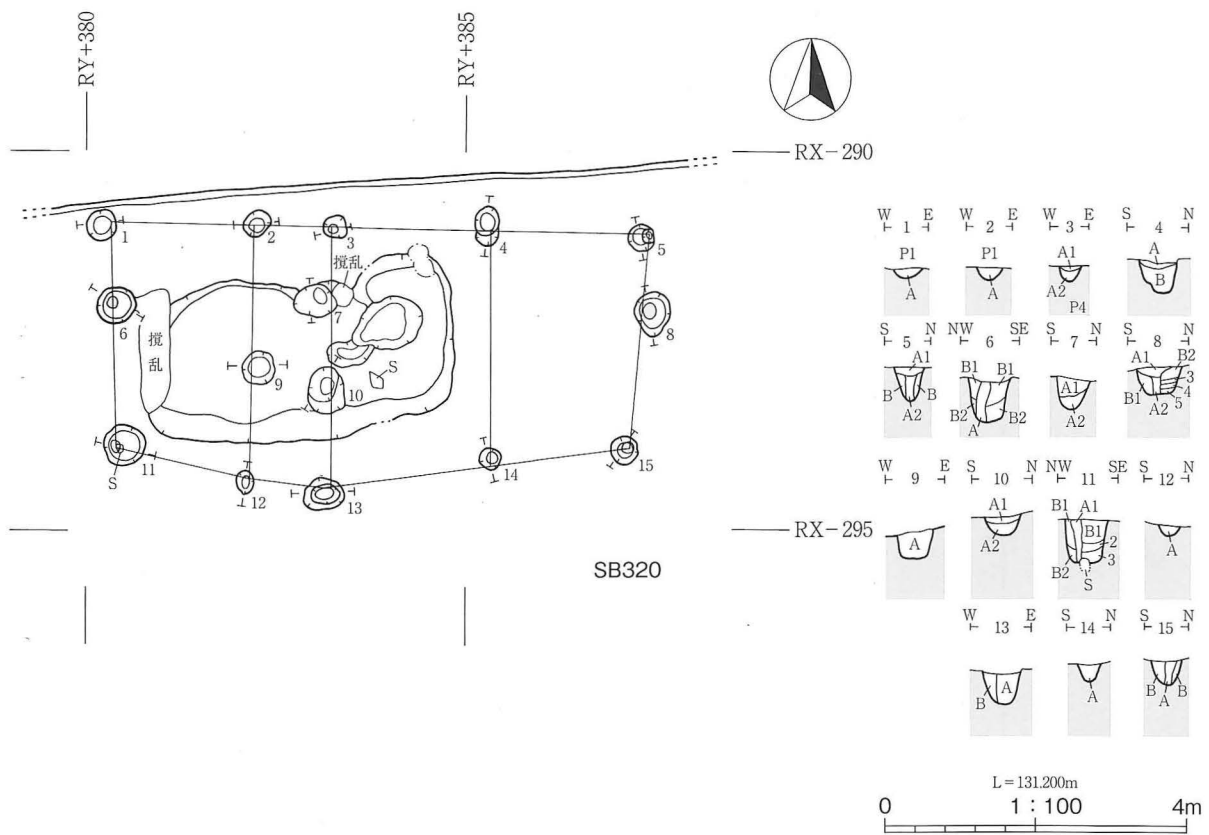


第 13 图 SA308 ~ 311 柱列跡

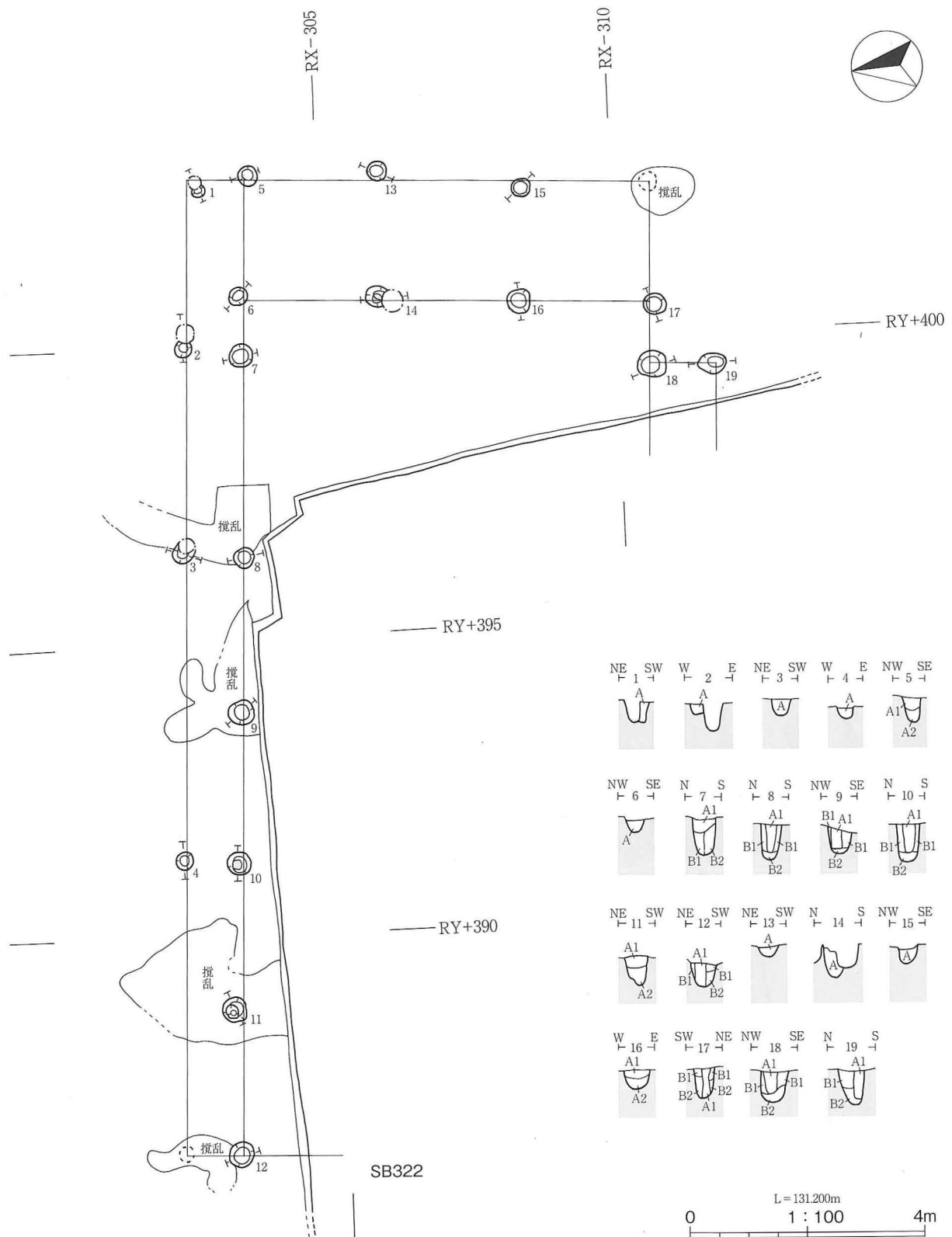




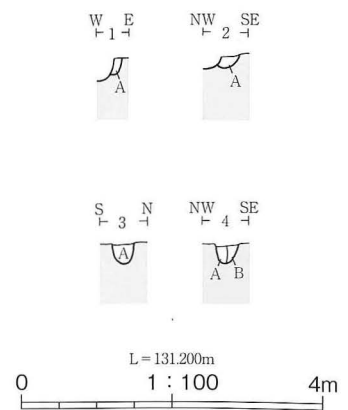
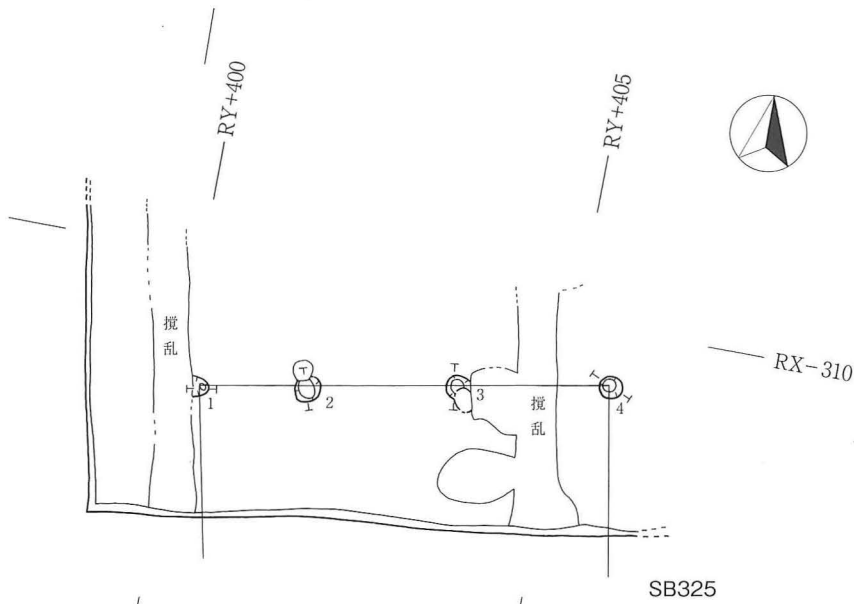
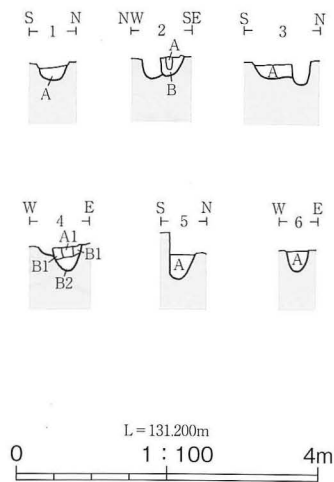
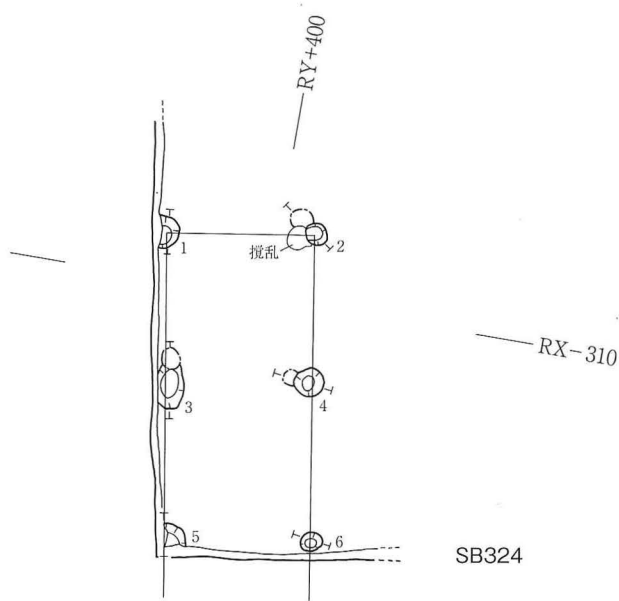
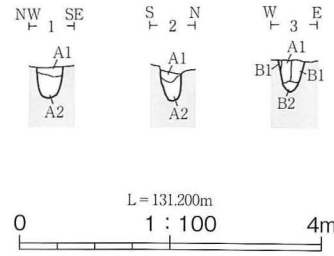
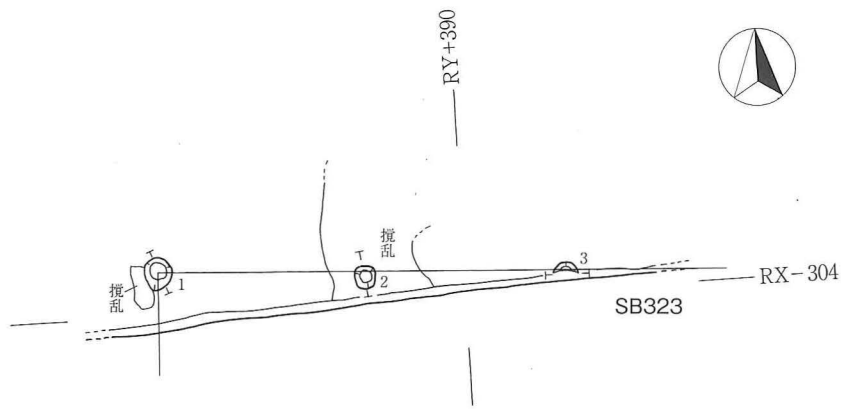
第 14 図 SA312・313 柱列跡



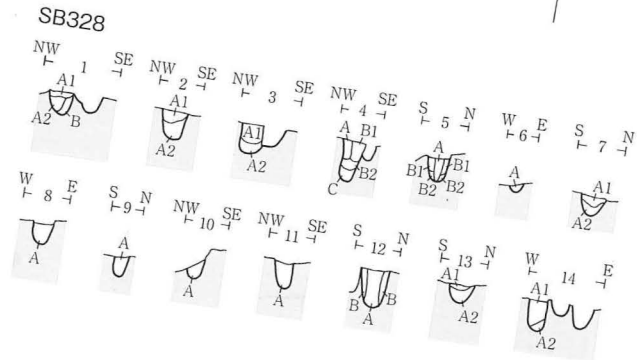
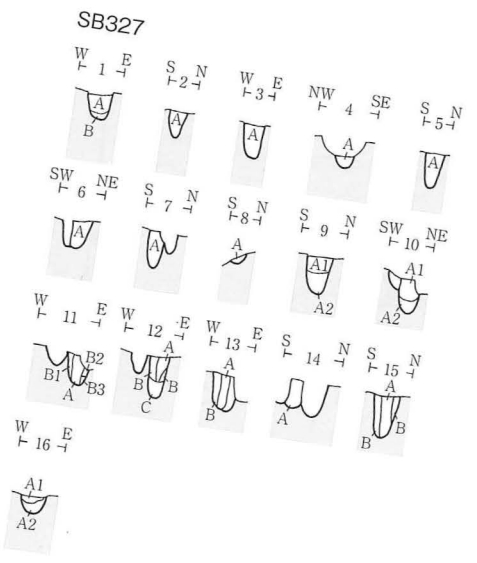
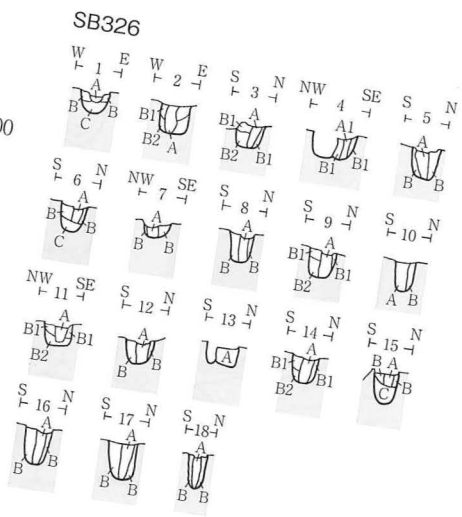
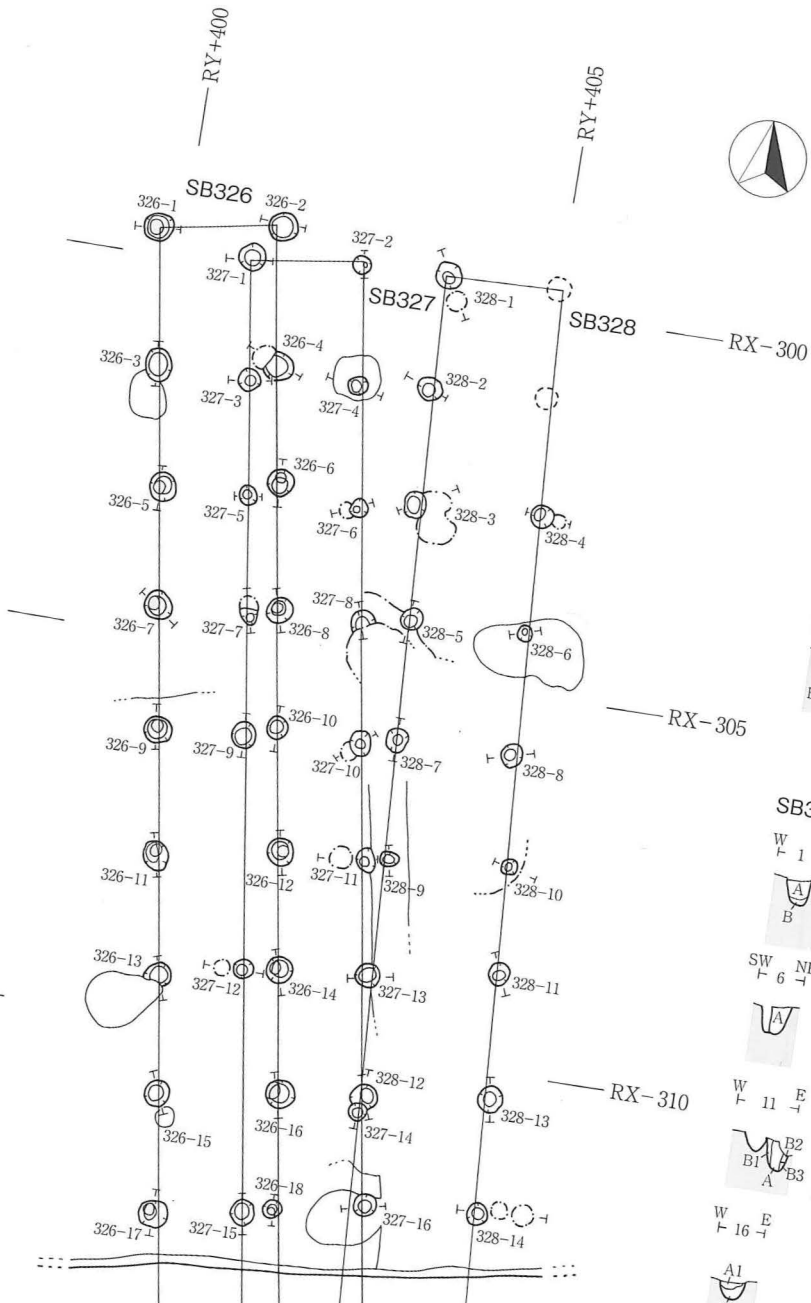
第 15 図 SB320・321 掘立柱建物跡



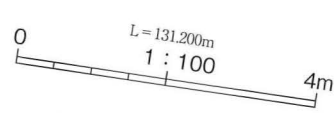
第 16 图 SB322 掘立柱建物跡

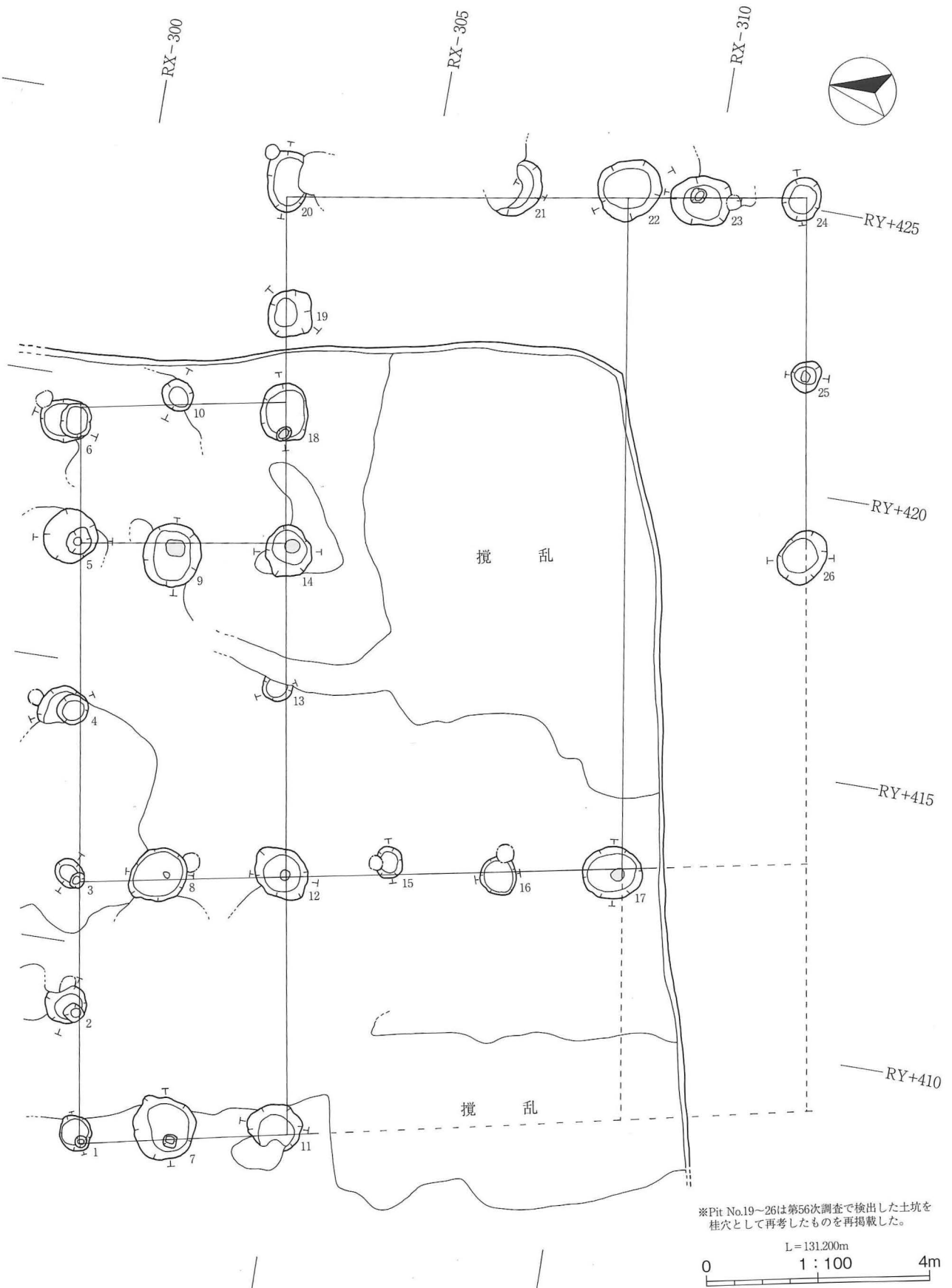


第 17 图 SB323 ~ 325 掘立柱建物跡

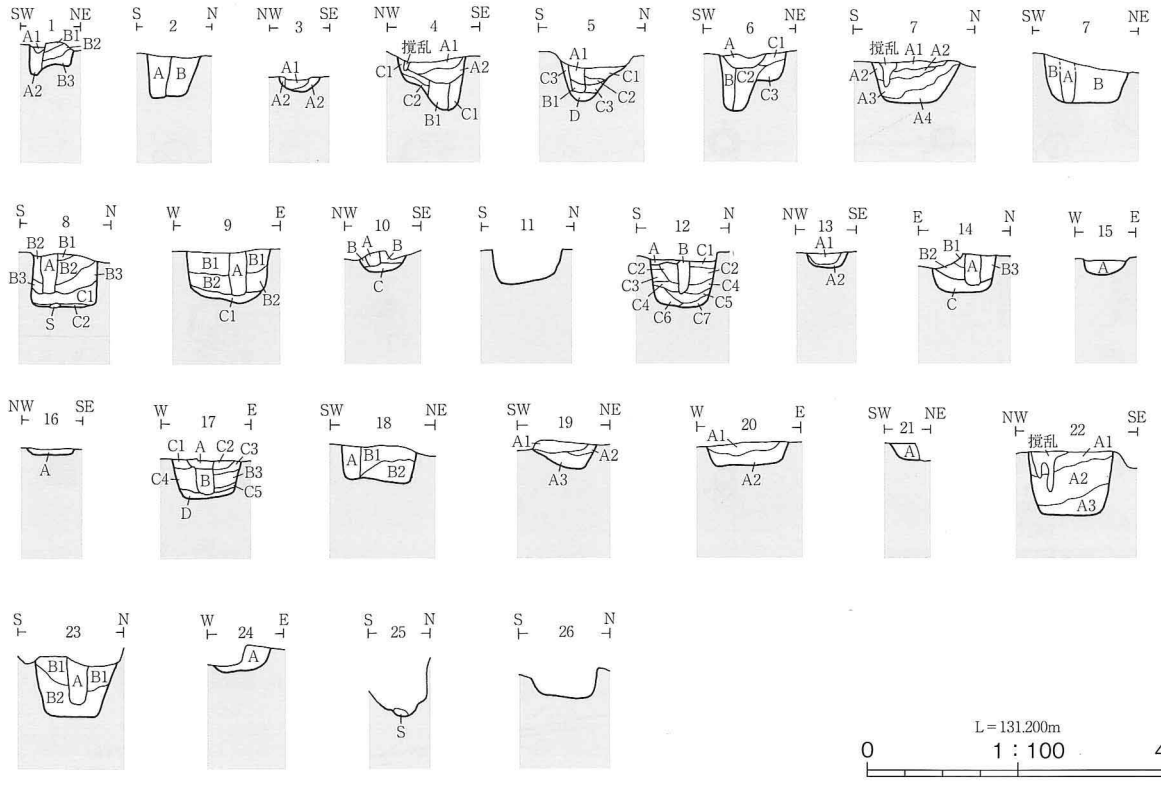


第 18 图 SB326 ~ 328 掘立柱建物跡

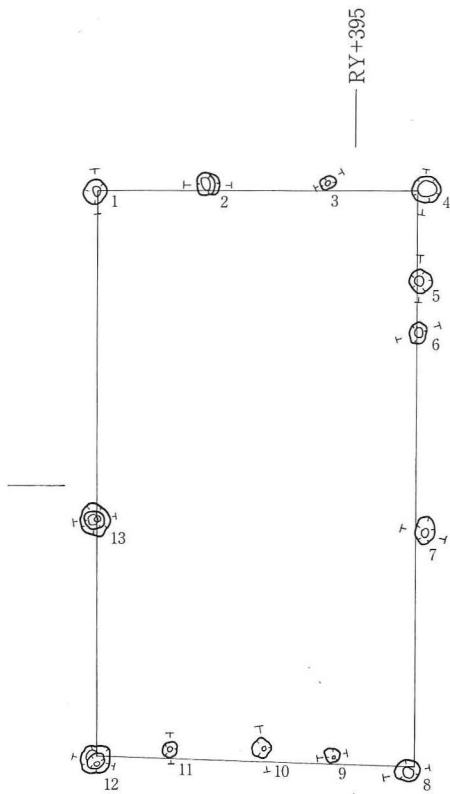




第19図 SB329 掘立柱建物跡 (1)

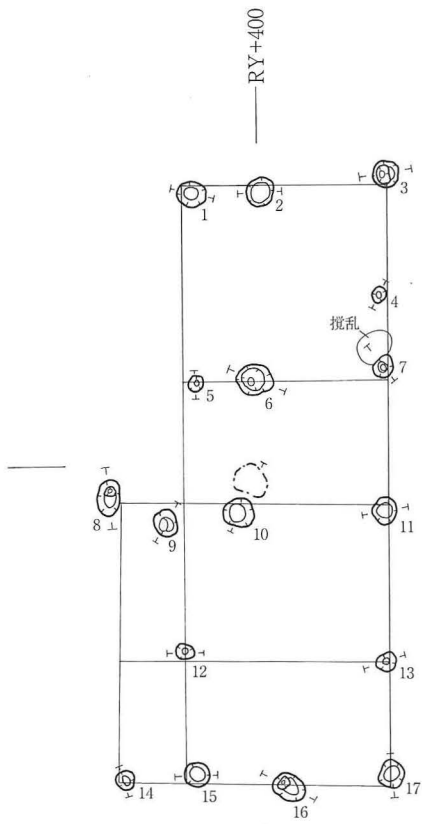
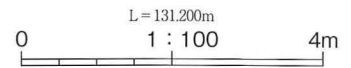
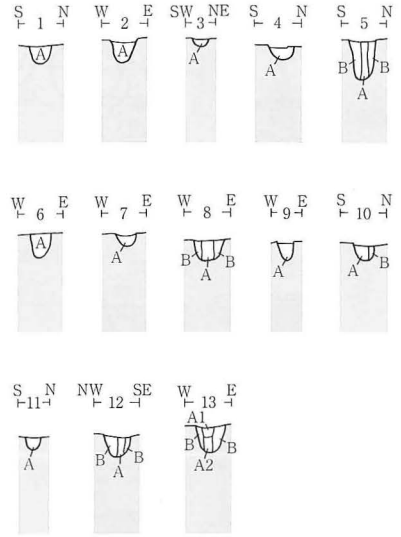


第 20 図 SB329 掘立柱建物跡 (2)



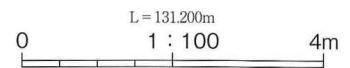
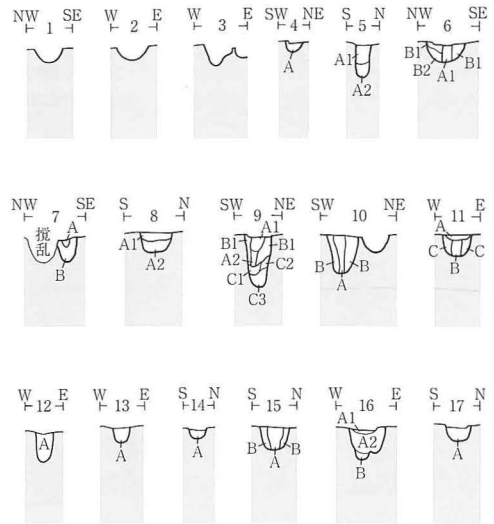
RX-290

SB330



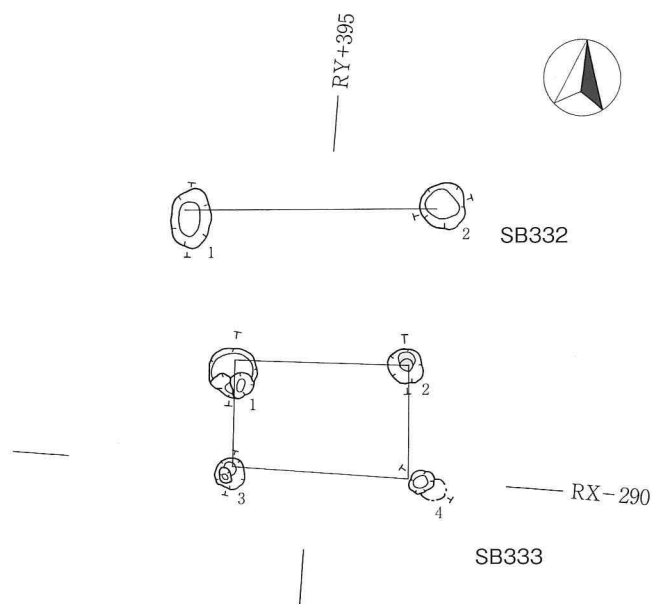
RX-290

SB331

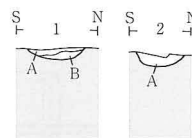


第 21 图 SB330 · 331 掘立柱建物跡

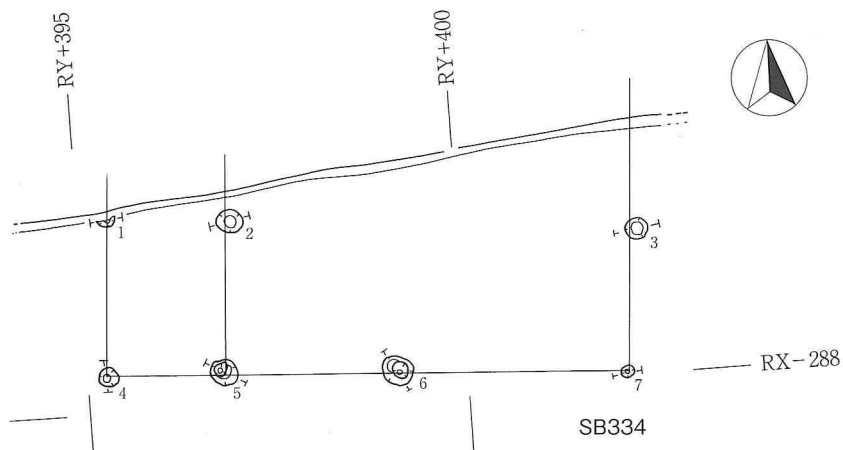
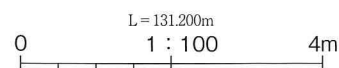
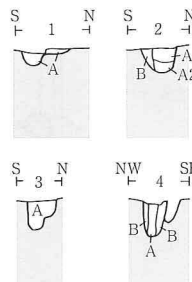




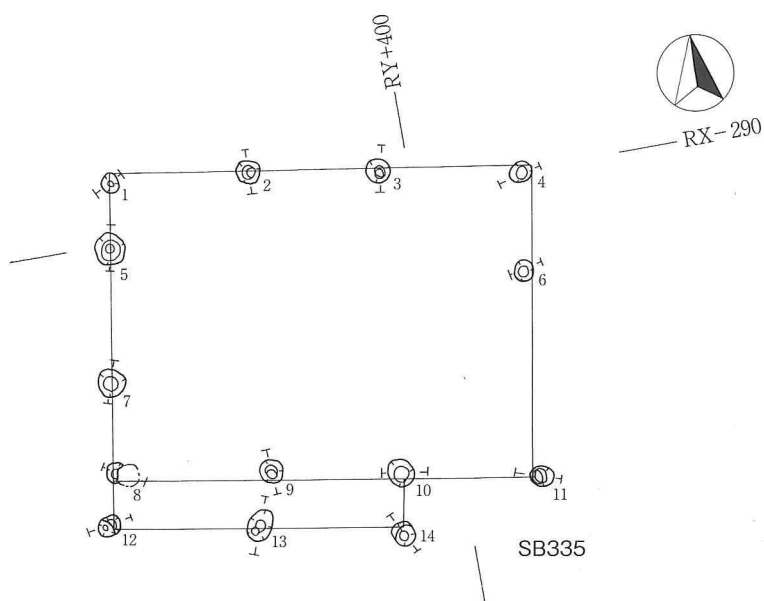
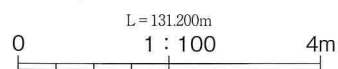
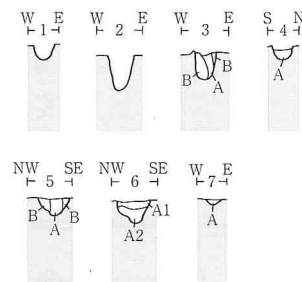
SB332



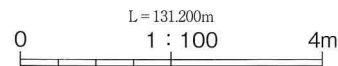
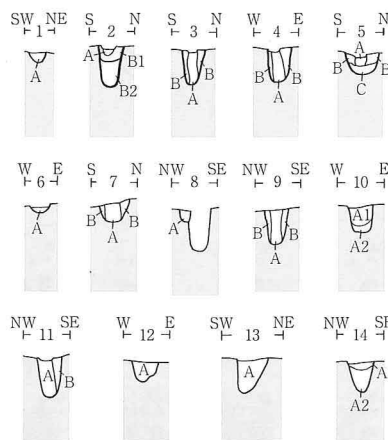
SB333



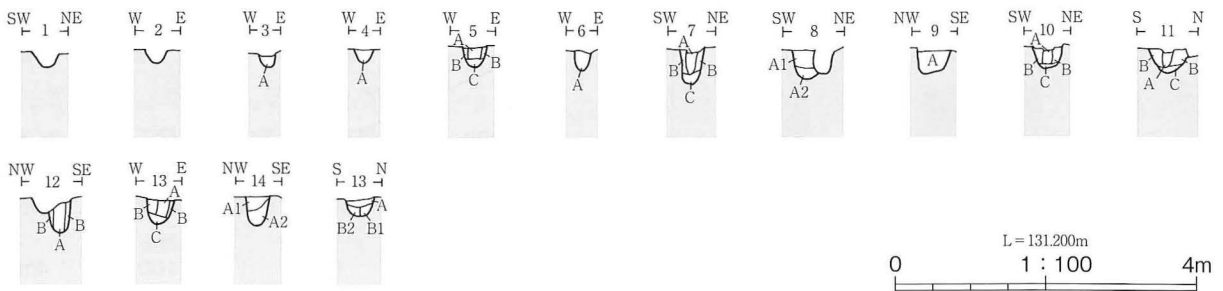
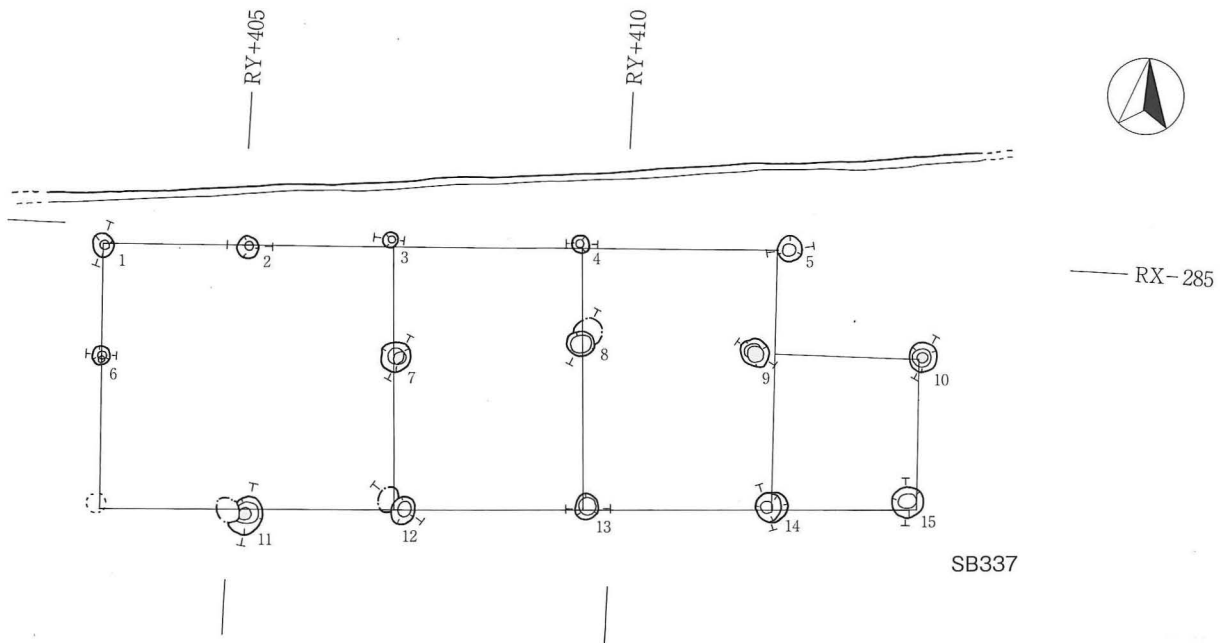
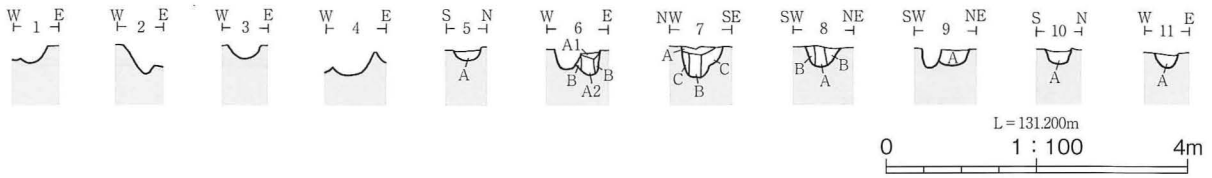
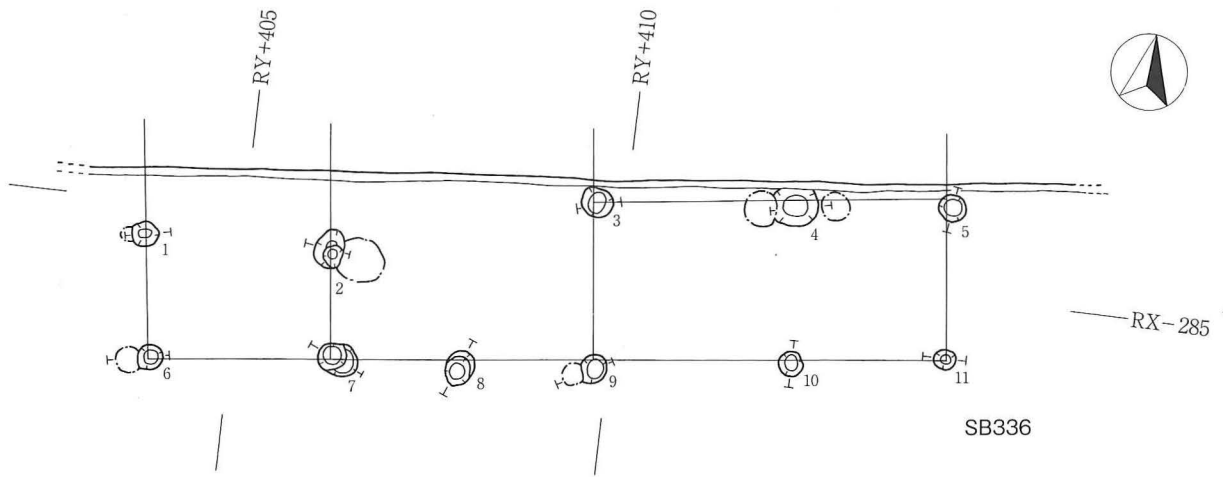
SB334



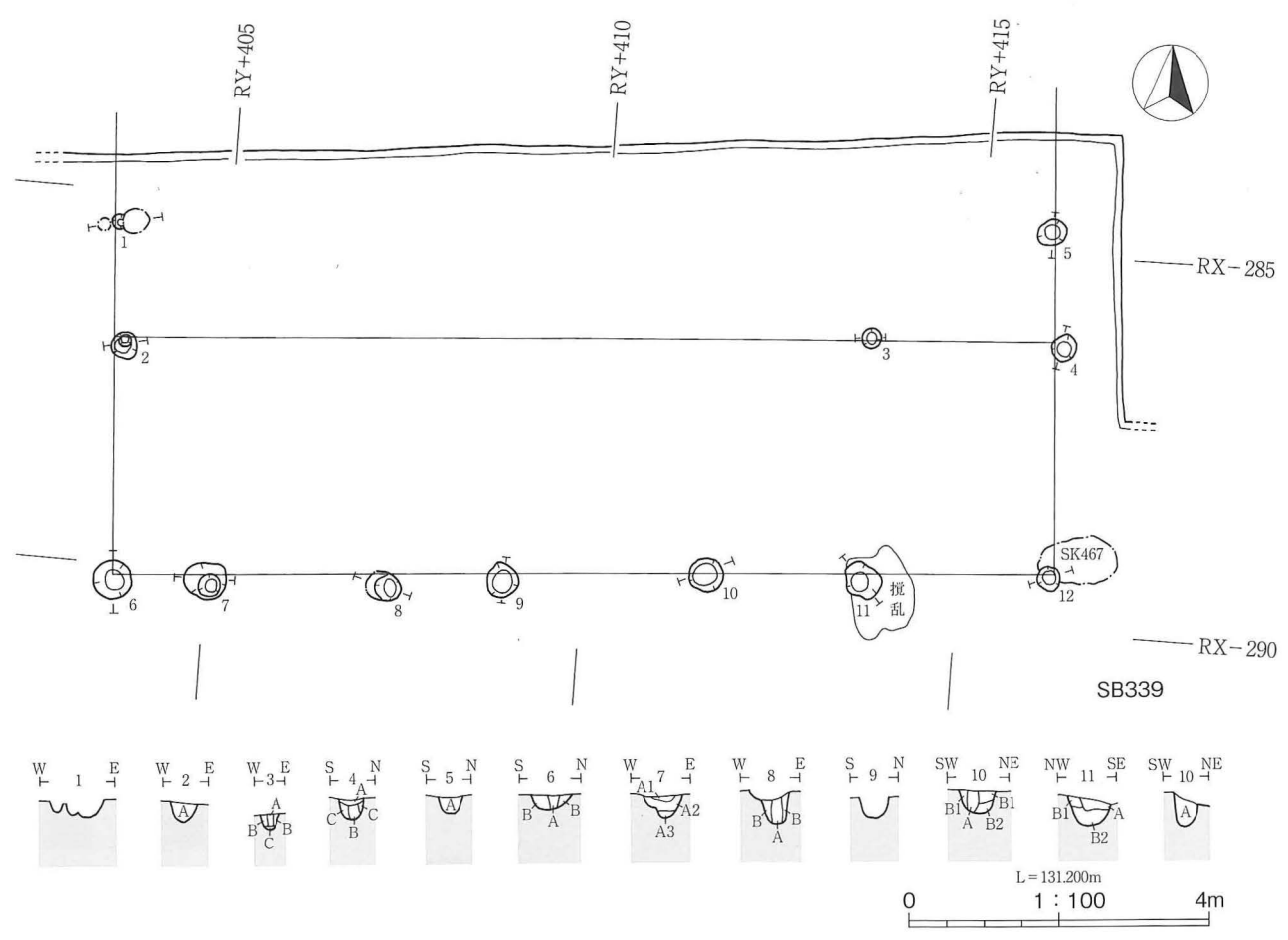
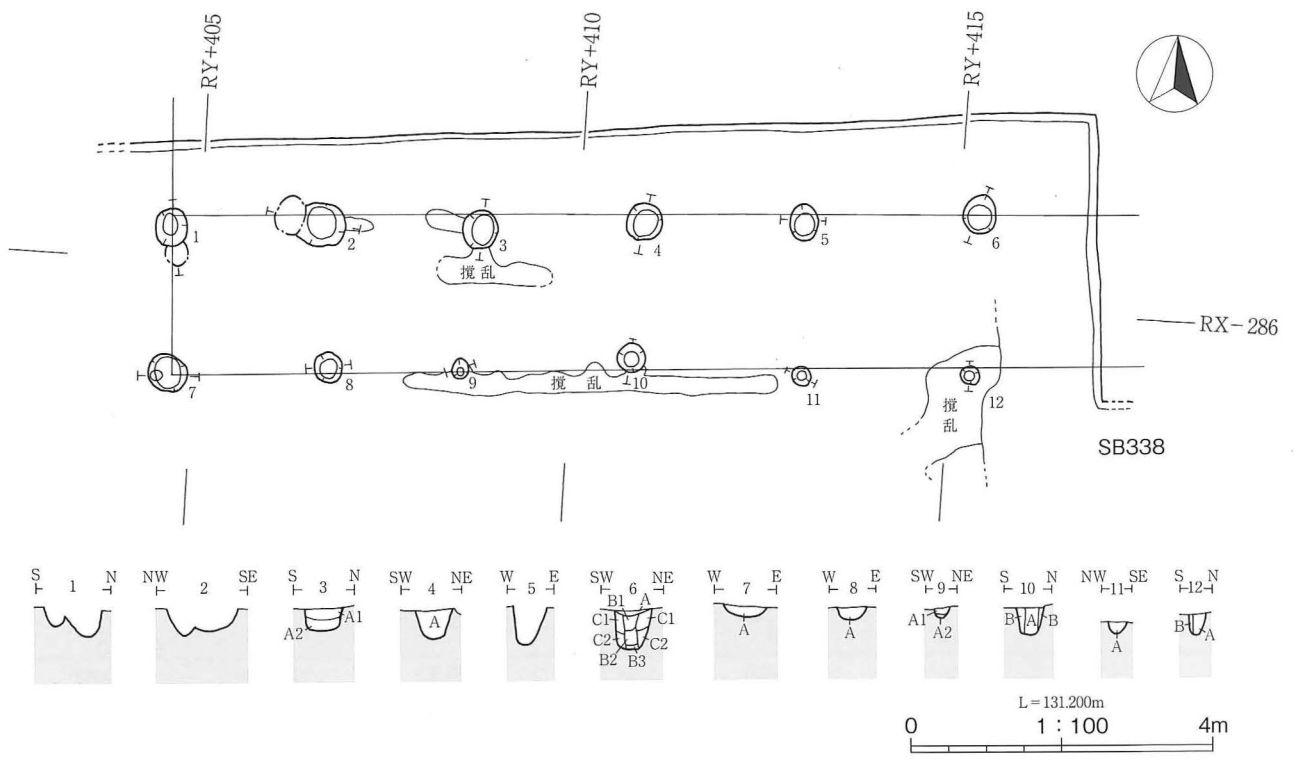
SB335



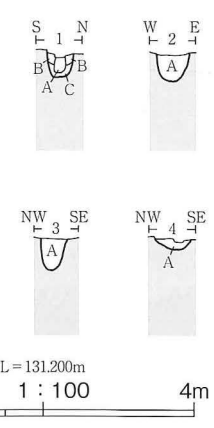
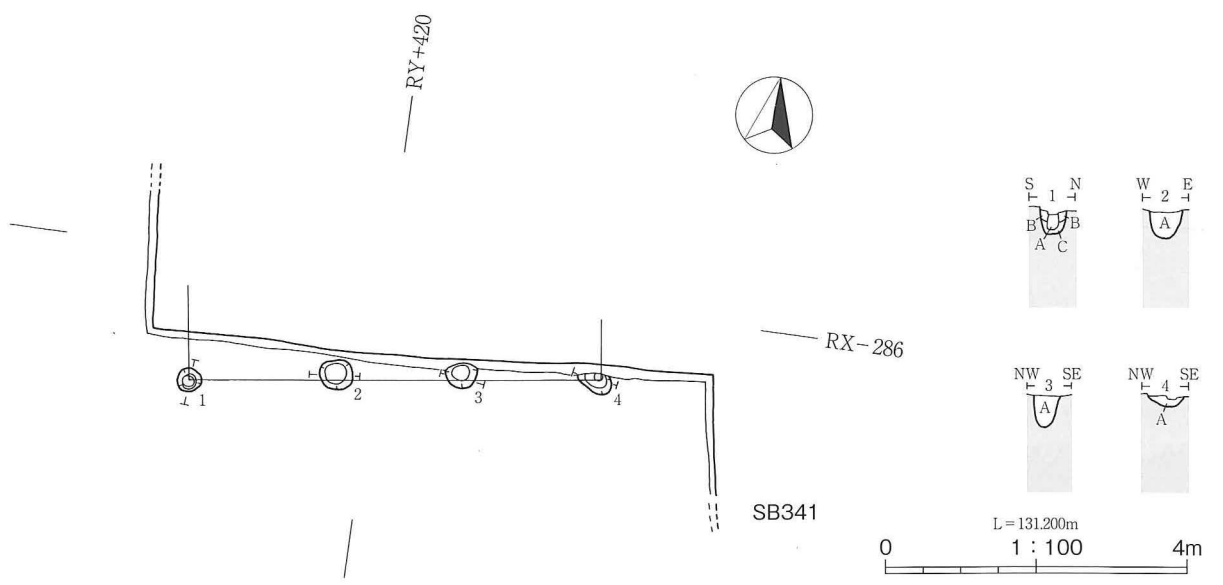
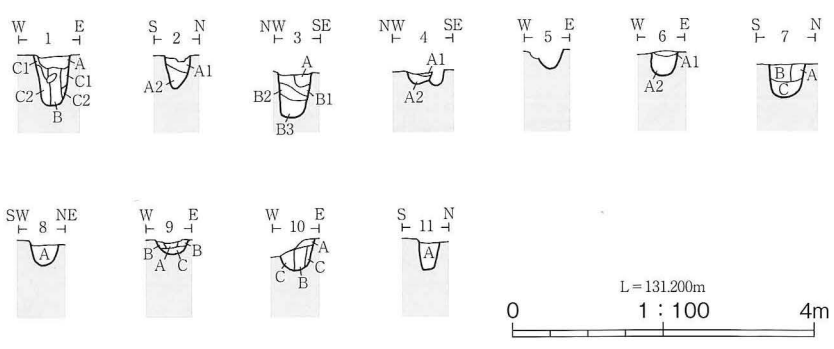
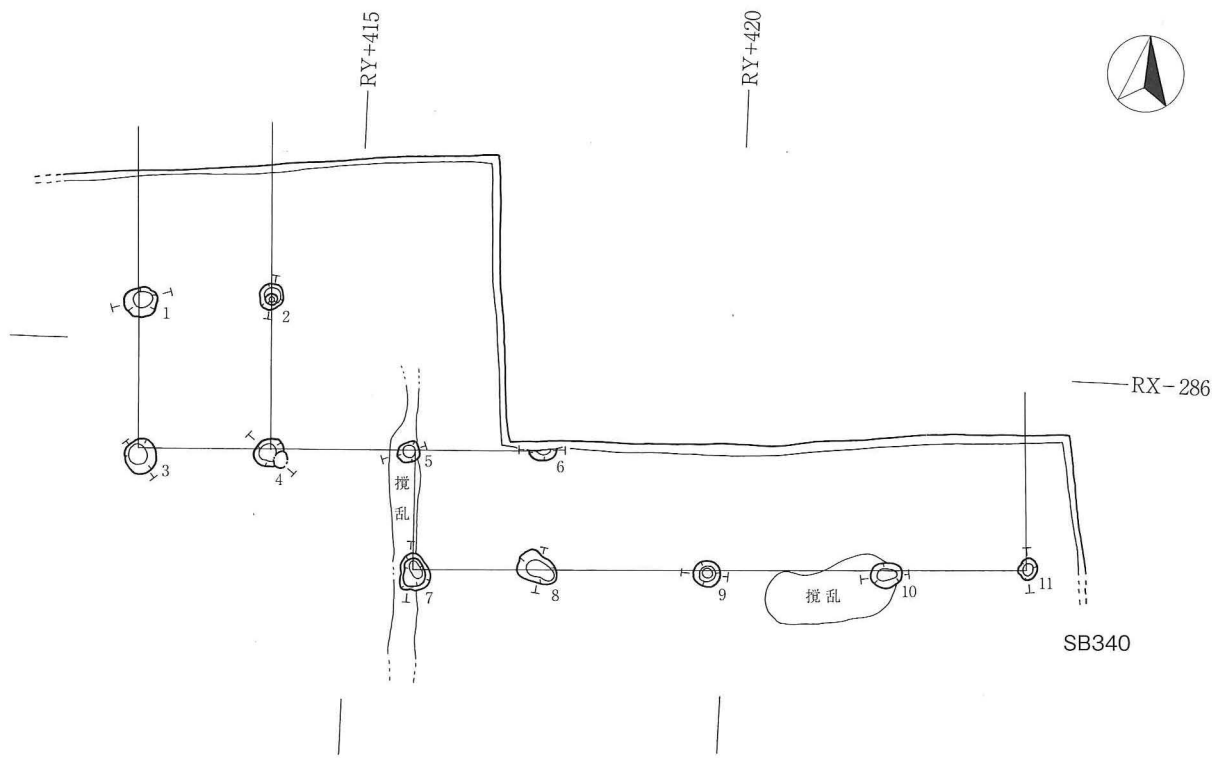
第 22 図 SB332 ~ 335 掘立柱建物跡



第 23 图 SB336 · 337 掘立柱建物跡



第 24 図 SB338・339 掘立柱建物跡



第 25 図 SB340・341 掘立柱建物跡

溝 跡 中世の溝跡が2条検出された。SD300は第1・29次調査で確認されている南北に延び、曲輪VIを区画する堀跡と一連のものである。規模等については第7表にまとめた。

遺構番号	位置	規模 (m)			備考
		長軸	短軸	深さ	
SD 300	H7-01	4.0 以上	1.5 以上	0.63 以上	薬研堀か
SD 413	H6-Q21	13.8 以上	0.20 ~ 0.25	0.11 ~ 0.25	

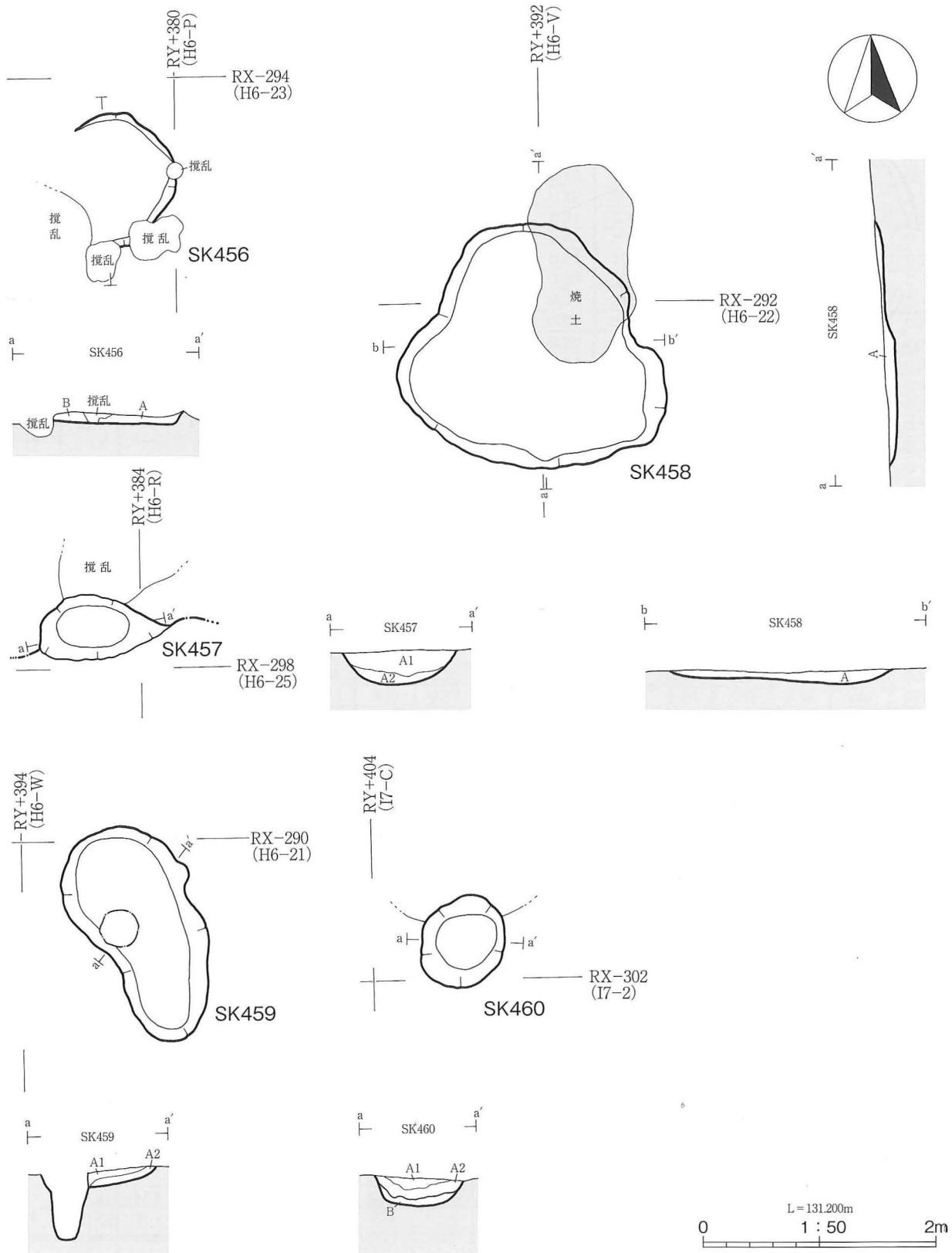
第7表 溝跡一覧

土 坑 土坑は12基確認した。いずれも円形または楕円形で、埋土は黒褐色土を主体とするものが多い。出土遺物が無いため時期については決め手に欠くが、他の遺構の埋土等と比較すると中世～近世に範囲に入ると思われる。規模等については下記の表（第8表）にまとめた。

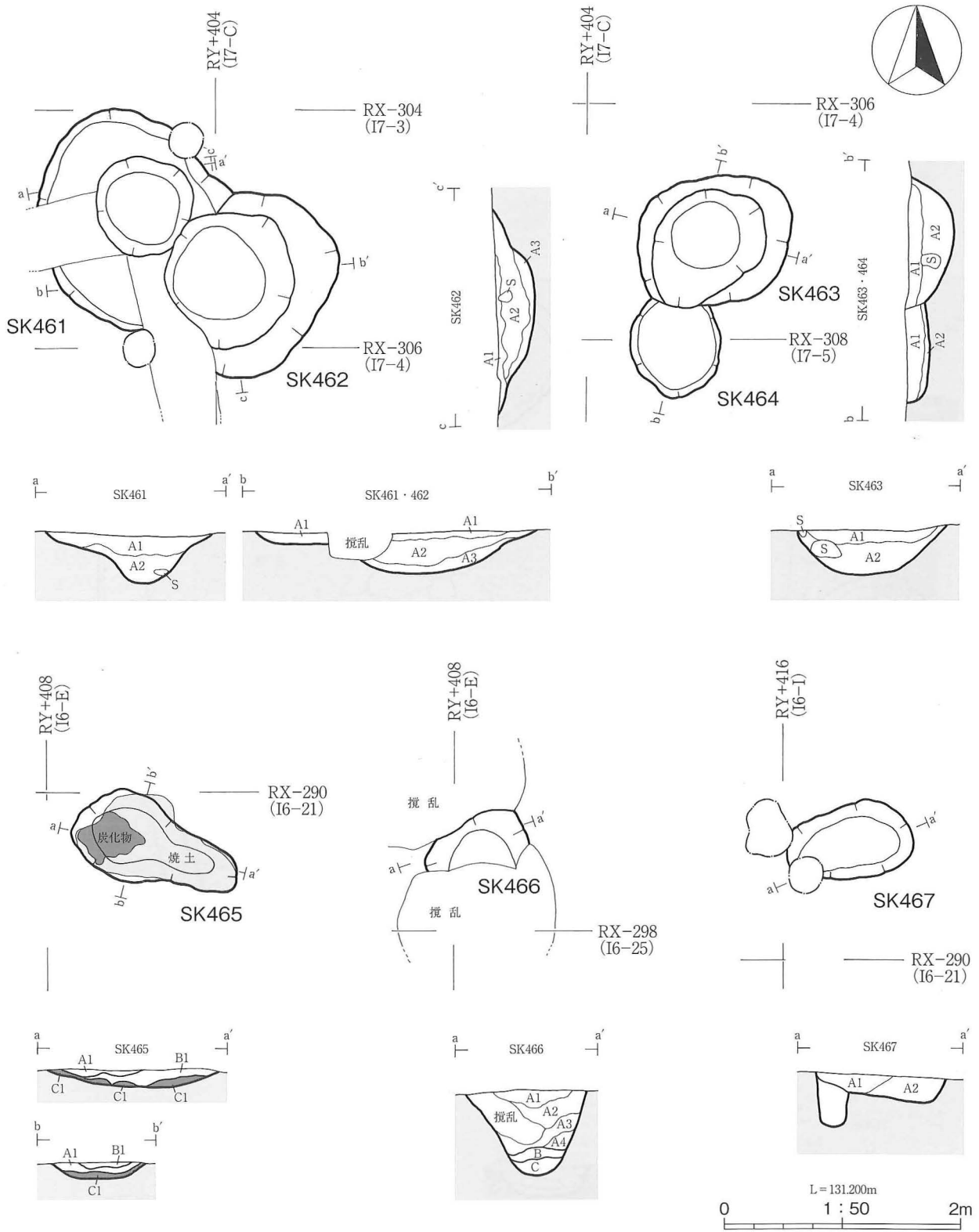
遺構番号	位置	平面形	規模 (m)			備考
			長軸	短軸	深さ	
SK456	H6-023	不明	1.12	0.90 以上	0.11	
SK457	H6-Q24	楕円形	1.13	0.54	0.31	SI324 を切る。
SK458	H6-U21	不整楕円形	2.30	2.08	0.20	
SK459	H6-W21	不整楕円形	1.90	0.86	0.17	
SK460	I7-C1	円形	0.80	0.72	0.31	
SK461	I7-B3	円形	1.87	1.64	0.47	SK462 に切られる。
SK462	I7-B3	円形	1.54	1.48	0.33	SK461 を切る。
SK463	I7-C4	円形	1.40	1.17	0.41	SK464 を切る。
SK464	I7-C4	円形	0.77 以上	0.76	0.20	SK463 に切られる。
SK465	I6-E21	不整楕円形	1.47	0.62	0.16	
SK466	I6-D24	不明	0.88	0.52 以上	0.72	
SK467	I6-I20	楕円形	1.06	0.62	0.28	

第8表 土坑一覧





第 27 图 SK456 ~ 460 土坑



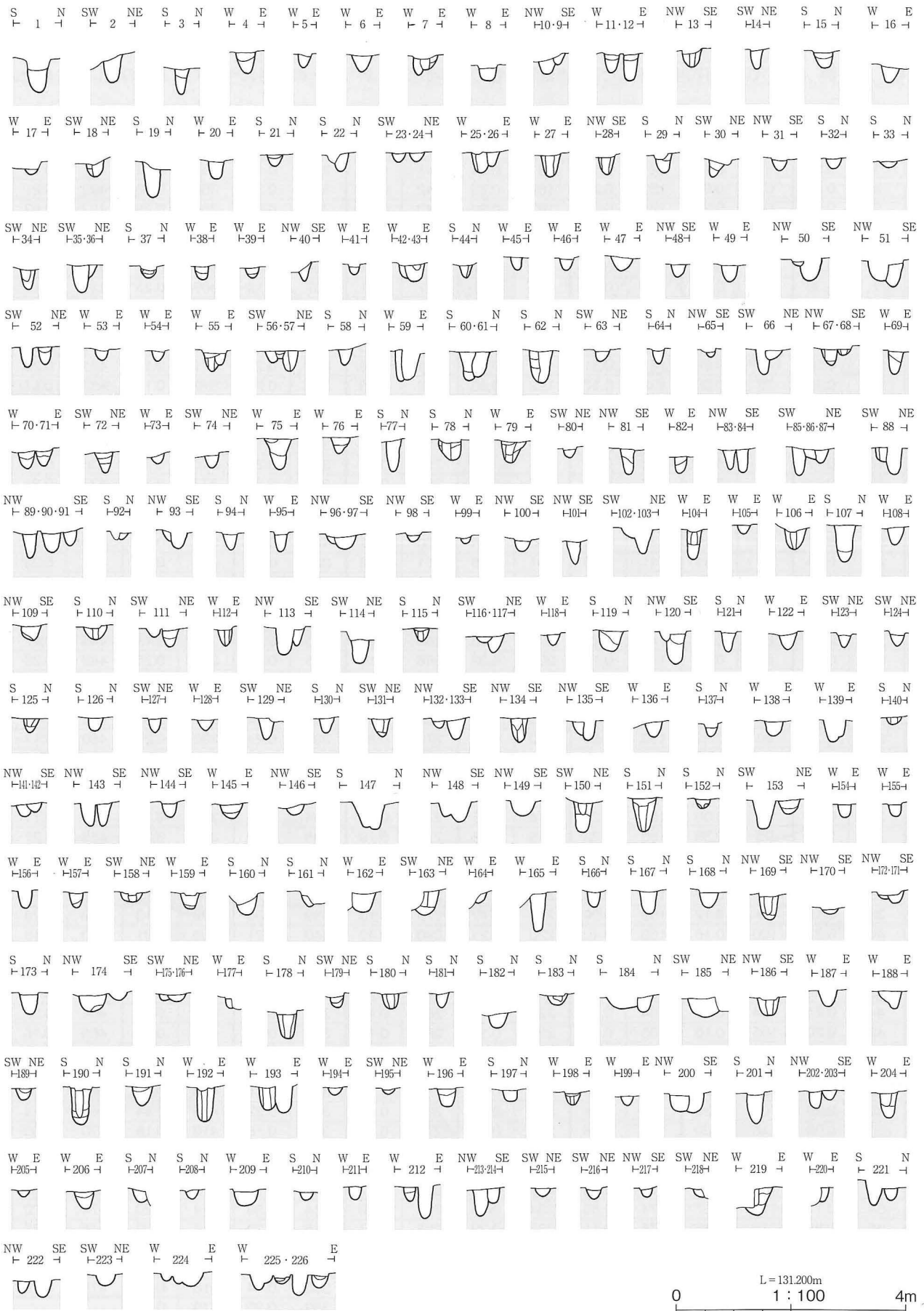
第 28 図 SK461 ~ 467 土坑



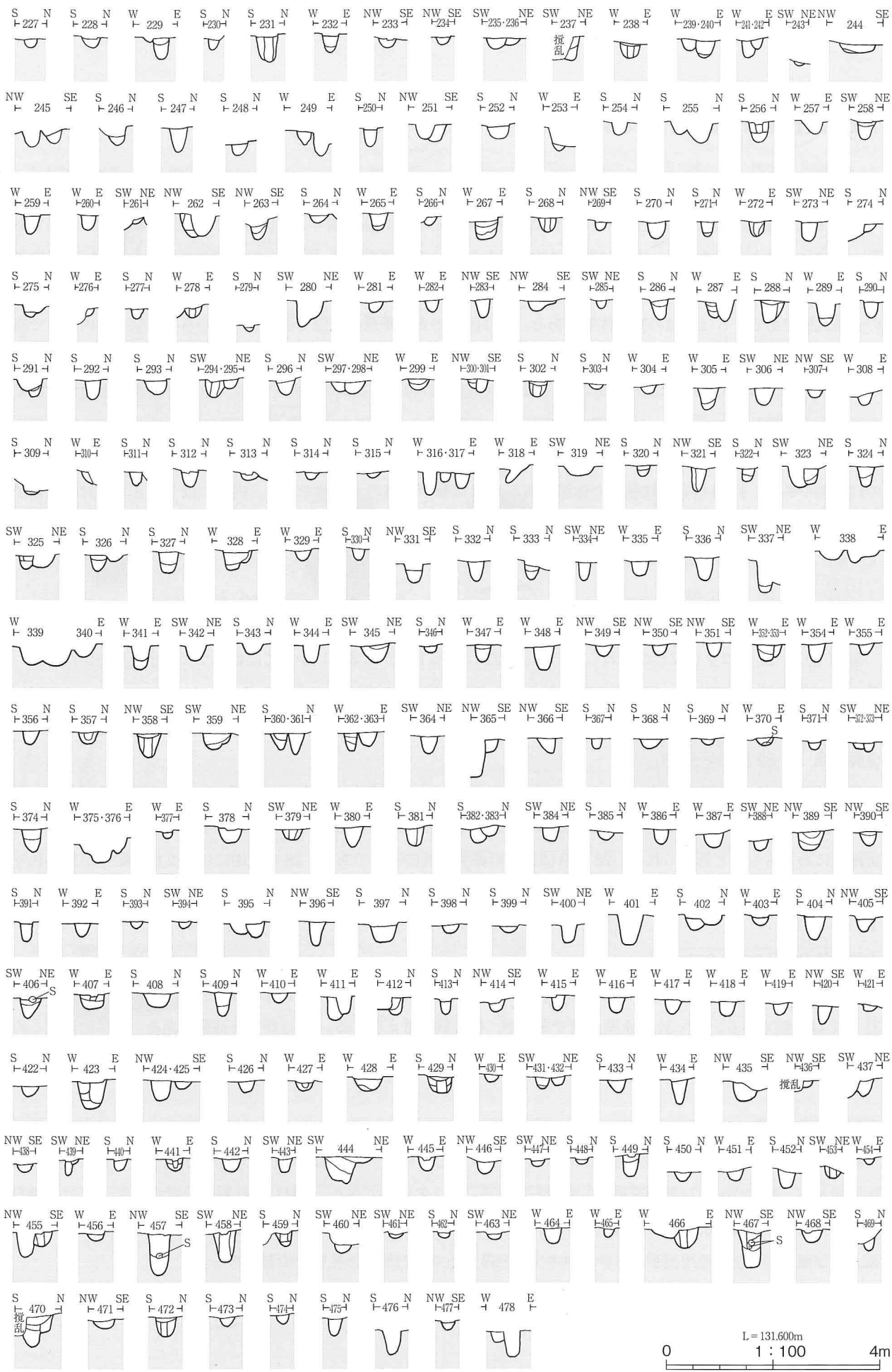
柱 穴 群 柱穴は478口検出された。埋土は黒褐色のものが多く。各ピットの深さについては下記の表にまとめた。

No.	深さ (m)	No.	深さ (m)	No.	深さ (m)	No.	深さ (m)	No.	深さ (m)	No.	深さ (m)	No.	深さ (m)	No.	深さ (m)
1	0.54	61	0.45	121	0.37	181	0.24	241	0.33	301	0.19	361	0.42	421	0.13
2	0.49	62	0.57	122	0.28	182	0.23	242	0.16	302	0.31	362	0.33	422	0.21
3	0.43	63	0.20	123	0.24	183	0.20	243	0.11	303	0.09	363	0.22	423	0.53
4	0.40	64	0.27	124	0.26	184	0.29	244	0.18	304	0.35	364	0.35	424	0.34
5	0.21	65	0.14	125	0.26	185	0.33	245	0.22	305	0.38	365	0.24	425	0.16
6	0.28	66	0.16	126	0.25	186	0.32	246	0.31	306	0.22	366	0.27	426	0.22
7	0.36	67	0.32	127	0.26	187	0.31	247	0.41	307	0.13	367	0.23	427	0.17
8	0.28	68	0.17	128	0.21	188	0.30	248	0.21	308	0.23	368	0.15	428	0.21
9	0.26	69	0.42	129	0.39	189	0.19	249	0.26	309	0.13	369	0.10	429	0.30
10	0.20	70	0.29	130	0.28	190	0.65	250	0.33	310	0.22	370	0.11	430	0.13
11	0.36	71	0.28	131	0.31	191	0.33	251	0.29	311	0.25	371	0.19	431	0.20
12	0.51	72	0.36	132	0.17	192	0.60	252	0.23	312	0.28	372	0.10	432	0.17
13	0.32	73	0.19	133	0.38	193	0.42	253	0.12	313	0.26	373	0.15	433	0.25
14	0.34	74	0.25	134	0.39	194	0.14	254	0.22	314	0.16	374	0.40	434	0.43
15	0.31	75	0.55	135	0.37	195	0.06	255	0.21	315	0.12	375	0.15	435	0.33
16	0.27	76	0.29	136	0.27	196	0.31	256	0.38	316	0.21	376	0.31	436	0.12
17	0.18	77	0.57	137	0.22	197	0.21	257	0.22	317	0.31	377	0.11	437	0.31
18	0.30	78	0.35	138	0.23	198	0.22	258	0.34	318	0.30	378	0.29	438	0.12
19	0.61	79	0.42	139	0.40	199	0.16	259	0.34	319	0.18	379	0.20	439	0.31
20	0.30	80	0.19	140	0.12	200	0.28	260	0.27	320	0.20	380	0.37	440	0.22
21	0.19	81	0.45	141	0.26	201	0.55	261	0.06	321	0.45	381	0.37	441	0.23
22	0.33	82	0.32	142	0.14	202	0.33	262	0.43	322	0.25	382	0.26	442	0.23
23	0.19	83	0.39	143	0.37	203	0.13	263	0.36	323	0.28	383	0.17	443	0.29
24	0.14	84	0.45	144	0.26	204	0.47	264	0.19	324	0.39	384	0.29	444	0.50
25	0.35	85	0.49	145	0.26	205	0.13	265	0.31	325	0.24	385	0.19	445	0.27
26	0.22	86	0.22	146	0.18	206	0.32	266	0.19	326	0.32	386	0.25	446	0.28
27	0.39	87	0.25	147	0.50	207	0.25	267	0.32	327	0.41	387	0.22	447	0.15
28	0.35	88	0.22	148	0.34	208	0.15	268	0.27	328	0.41	388	0.16	448	0.12
29	0.38	89	0.48	149	0.23	209	0.27	269	0.20	329	0.24	389	0.38	449	0.38
30	0.31	90	0.39	150	0.53	210	0.17	270	0.34	330	0.24	390	0.27	450	0.17
31	0.22	91	0.30	151	0.60	211	0.21	271	0.24	331	0.36	391	0.35	451	0.27
32	0.19	92	0.07	152	0.15	212	0.28	272	0.28	332	0.42	392	0.25	452	0.35
33	0.12	93	0.20	153	0.23	213	0.23	273	0.35	333	0.36	393	0.11	453	0.20
34	0.38	94	0.30	154	0.22	214	0.46	274	0.14	334	0.35	394	0.10	454	0.11
35	0.46	95	0.35	155	0.22	215	0.16	275	0.19	335	0.30	395	0.24	455	0.27
36	0.22	96	0.25	156	0.32	216	0.21	276	0.12	336	0.46	396	0.43	456	0.17
37	0.16	97	0.18	157	0.24	217	0.17	277	0.15	337	0.56	397	0.37	457	0.76
38	0.21	98	0.12	158	0.15	218	0.17	278	0.21	338	0.26	398	0.17	458	0.59
39	0.18	99	0.12	159	0.29	219	0.47	279	0.13	339	0.36	399	0.13	459	0.28
40	0.33	100	0.16	160	0.40	220	0.24	280	0.49	340	0.21	400	0.31	460	0.18
41	0.18	101	0.40	161	0.28	221	0.22	281	0.22	341	0.45	401	0.53	461	0.11
42	0.27	102	0.15	162	0.35	222	0.32	282	0.19	342	0.30	402	0.25	462	0.11
43	0.29	103	0.40	163	0.43	223	0.17	283	0.31	343	0.19	403	0.18	463	0.15
44	0.24	104	0.52	164	0.16	224	0.15	284	0.23	344	0.35	404	0.45	464	0.32
45	0.20	105	0.16	165	0.67	225	0.18	285	0.16	345	0.34	405	0.27	465	0.16
46	0.22	106	0.37	166	0.27	226	0.23	286	0.37	346	0.17	406	0.37	466	0.38
47	0.27	107	0.63	167	0.41	227	0.17	287	0.29	347	0.32	407	0.24	467	0.72
48	0.23	108	0.31	168	0.30	228	0.18	288	0.43	348	0.44	408	0.25	468	0.24
49	0.29	109	0.30	169	0.44	229	0.39	289	0.40	349	0.22	409	0.44	469	0.24
50	0.09	110	0.20	170	0.08	230	0.21	290	0.29	350	0.18	410	0.15	470	0.60
51	0.45	111	0.32	171	0.23	231	0.52	291	0.33	351	0.25	411	0.42	471	0.17
52	0.29	112	0.30	172	0.11	232	0.34	292	0.32	352	0.34	412	0.29	472	0.37
53	0.19	113	0.32	173	0.35	233	0.23	293	0.27	353	0.13	413	0.26	473	0.18
54	0.17	114	0.57	174	0.35	234	0.16	294	0.29	354	0.36	414	0.20	474	0.20
55	0.38	115	0.19	175	0.11	235	0.22	295	0.17	355	0.22	415	0.26	475	0.35
56	0.21	116	0.12	176	0.13	236	0.09	296	0.26	356	0.24	416	0.28	476	0.45
57	0.32	117	0.36	177	0.23	237	0.44	297	0.23	357	0.21	417	0.26	477	0.15
58	0.29	118	0.20	178	0.47	238	0.27	298	0.23	358	0.44	418	0.25	478	0.19
59	0.53	119	0.35	179	0.23	239	0.21	299	0.20	359	0.30	419	0.26		
60	0.49	120	0.55	180	0.28	240	0.29	300	0.11	360	0.32	420	0.35		

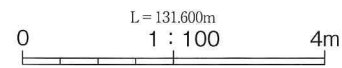
第9表 ピット計測一覧



第 29 図 ピット断面図 (1)



第30図 ピット断面図(2)



## 10. 出土遺物（第 31 ～ 33 図）

### 陶磁器（第 31 図 1 ～ 20）

第 31 図 1 は肥前系緑釉皿の底部である。見こみの釉を同心円状に掻き取りしている。2 は相馬雅物小碗の底部である。手びねりによって成形し、内面に駒の鉄絵が描かれている。底裏には「金重」の刻印が施される。3 は古唐津の丸皿である。高台が摩滅によって外削ぎ状となっている。4 は肥前の京焼風皿の底部である。5 は瀬戸美濃大窯 I 期の灰釉丸皿である。6 は鉄釉の甕の体部である。7 は国産の青磁華瓶の底部である。底裏から孔を穿ち、内部まで施釉されている。8 は瀬戸美濃大窯 I 期の灰釉皿の底部である。9 は中国産染付皿の底部である。高台部分に砂目が残る。10 は中国産染付けの口縁部片である。11 は瀬戸美濃の鉄釉天目茶碗の体部である。12 は肥前京焼風皿の底部である。高台は露胎されている。13 は肥前の青磁皿の底部である、内面中央の釉が掻き取りされている。14 は肥前染付草木文の碗である。底裏に「大明年製」の銘がある。15 は国産染付山水文の角鉢片である。16 は肥前の青磁華瓶の口縁部である。17 は信楽の鉄釉甕の体部である。18 は瀬戸美濃のすり鉢である。内面には 7 ～ 8 本一對の櫛目が施されている。19 は岩手焼の草花文茶碗である。底裏に「岩手焼」の銘が呉須で書かれている。20 は灰釉の土人形である。中は中空で背中部分に焼成前に孔が穿かれている。

### 土器（第 31 図 21 ～ 23）

第 31 図 21・22 はロクロ成形のかわらけである。21 は体部下半から底部にかけて回転ヘラケズリの調整が残っている。23 は須恵器の坏である。口縁下に突帯があり、古墳時代中～後期のものとみられる。

### 金属製品（第 32 図 24 ～ 29）

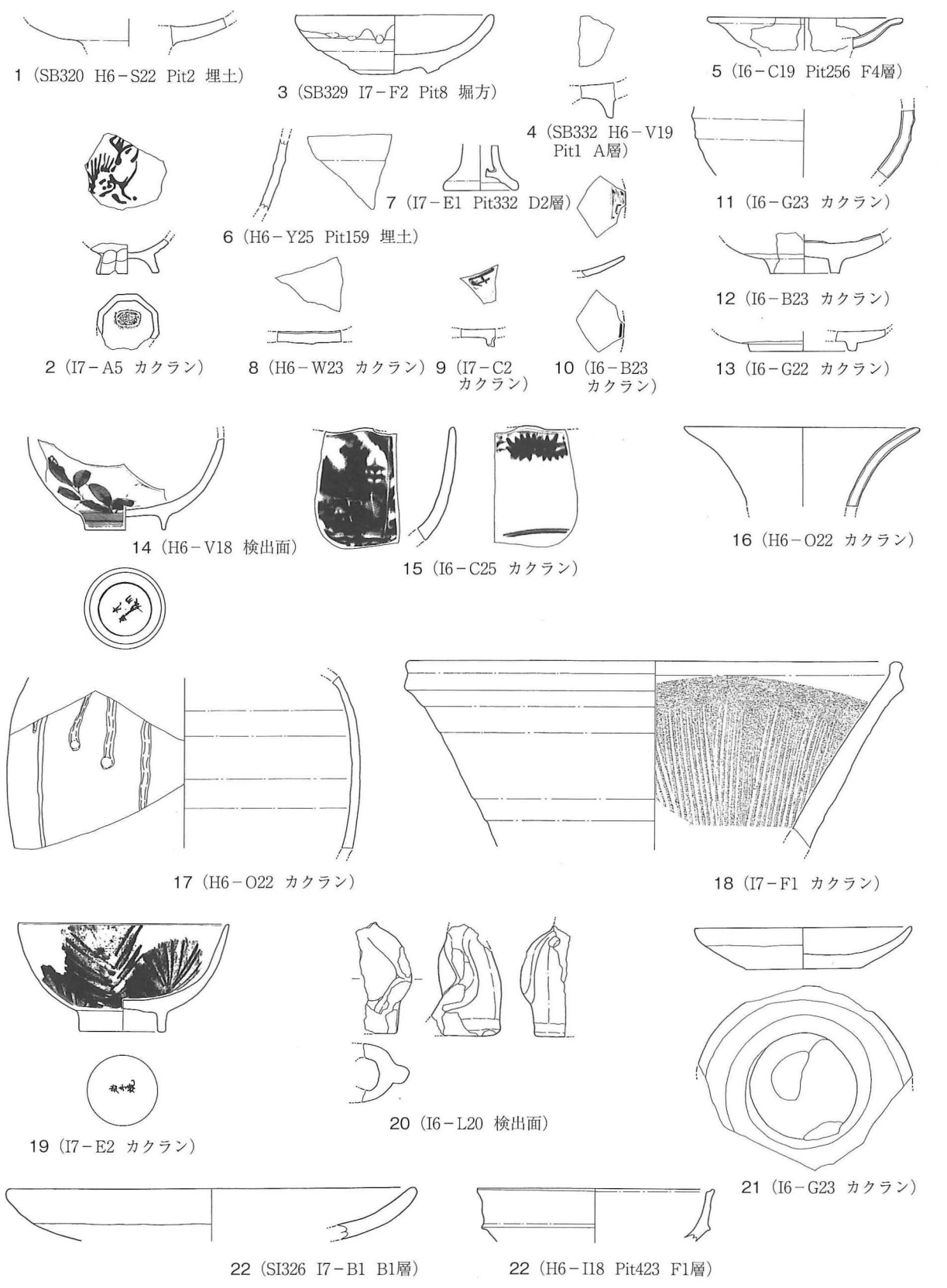
第 32 図 24・25 は鉄製の角釘である。26 は梅花をモチーフとした銅製の装飾品の一部である。三重構造の留板を裏側より鉾で支えている。27 は球状の鉄製品である。細い軸状の痕跡が認められるため、棒状の工具ないし装飾品の先端部分にあたるものと考えられる。28・29 は銅製の羅宇煙管の吸口である。28 の表面には麻文様の彫金が施されている。29 は肩部が大きく膨らむ形状を持つ。

### 古銭（第 32 図 30 ～ 35）

第 32 図 30 は「寶」字の 18 画と 19 画が接する、所謂ス寶であることから、古寛永通寶（寛永 13 年初鑄）である。31・32 は鋳銭である。33・34 は永樂通寶であるが、模鑄銭と考えられる。35 は新寛永通寶である。全体的に硬く鋭い書体から V 期（1736 ～ 1745 年）に相当すると考えられる（川根正教 2001）。

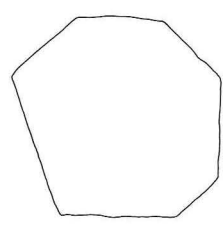
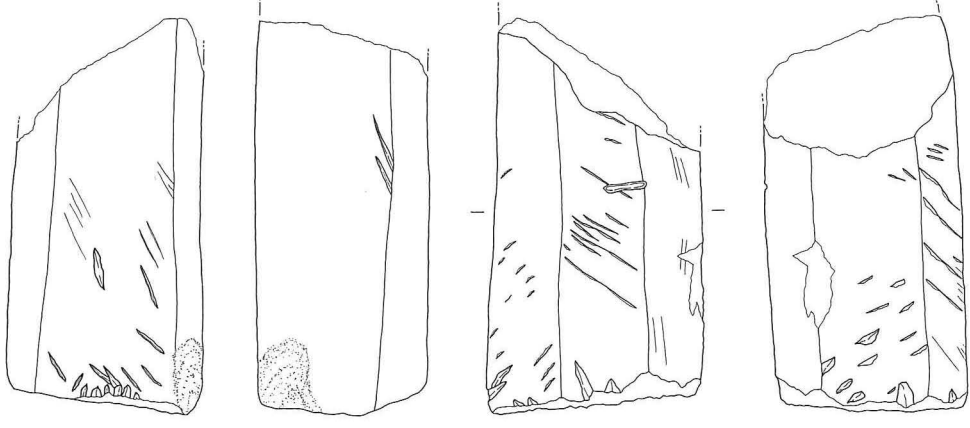
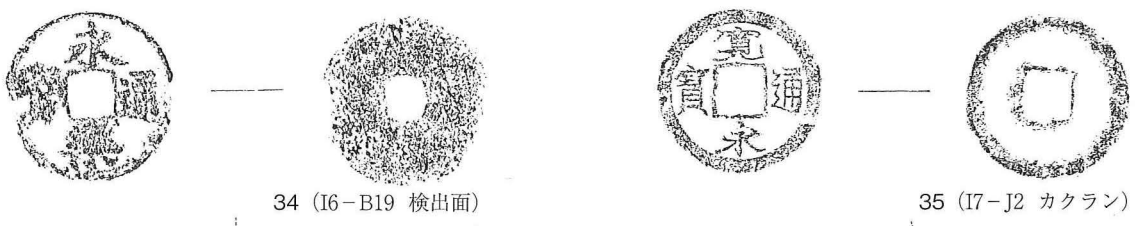
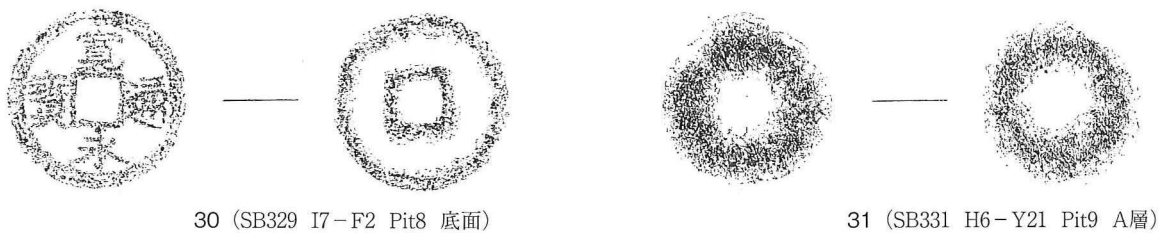
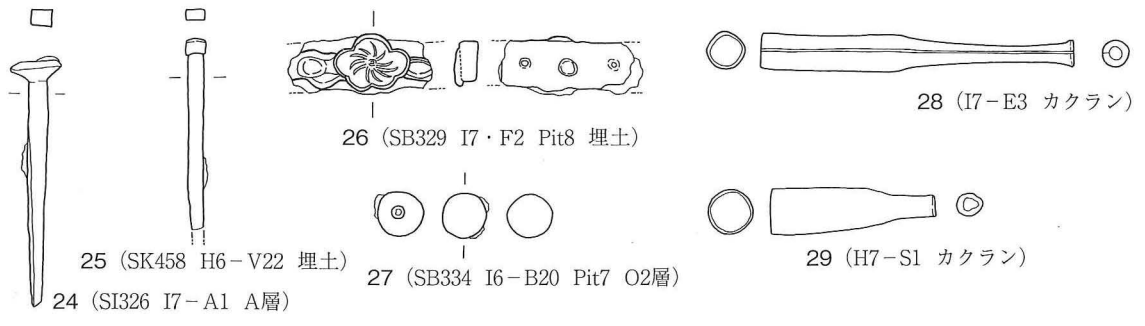
### 石製品（第 32 図 36 ～ 第 33 図 40）

第 32 図 36 は砥石である。7 面使用しており、1/2 欠損している。複数面に半円状の条痕が見受けられ、石材は凝灰岩である。第 33 図 37 は両面を使用した砥石である。1/2 欠損しており、石材は多孔質安山岩である。38 は玉髓を使った火打石である。39 は搗臼である。片面のみ使用しており、石材は多孔質安山岩である。40 は砥石である。表面および側面の一部に使用面がある。表面中央に凹みがあり、石材は多孔質安山岩である。



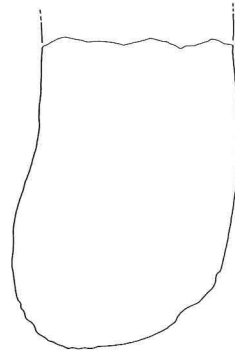
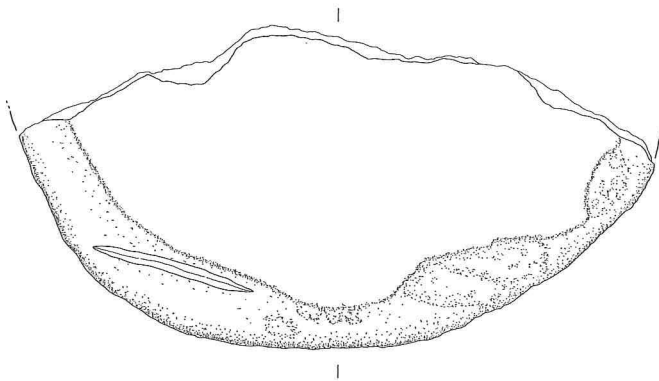
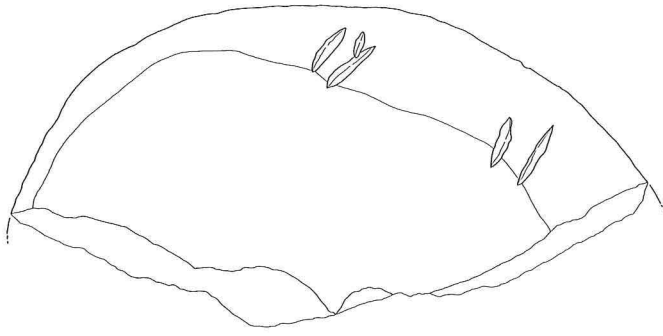
0 1:3 10cm

第31図 遺構, 遺構外出土遺物(1)

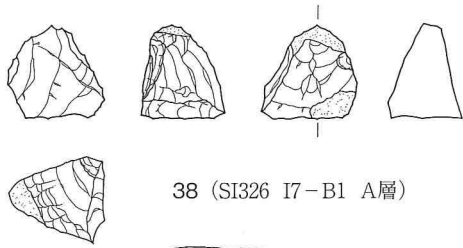


26・30～35は1：1  
 24・25・28・29は1：2  
 0 1 3 10cm

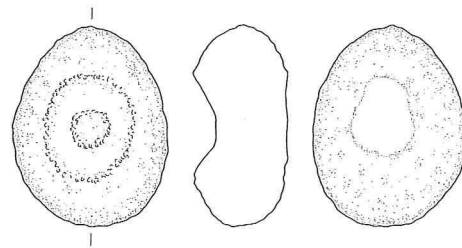
第32図 遺構，遺構外出土遺物（2）



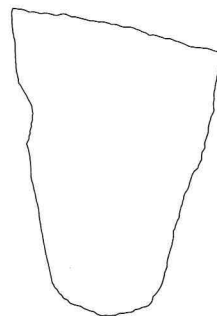
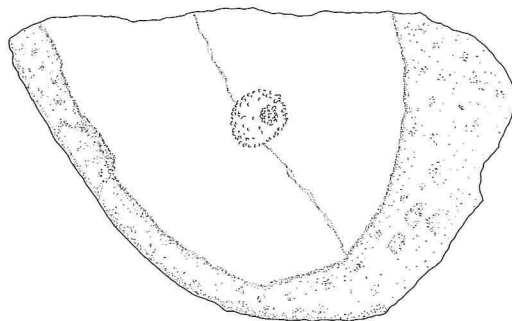
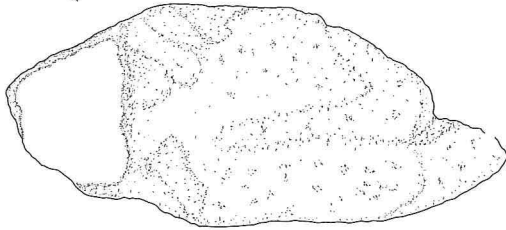
37 (SB320 H6-Q22 底面)



38 (SI326 I7-B1 A層)



39 (H6-V24 Pit88 埋土)



40 (I6-B23 カクラン)

38は1:2  
0 1:3 10cm

第33図 遺構, 遺構外出土遺物(3)

### Ⅲ. 総括

**検出遺構** 第64次調査では、中世の竪穴建物跡6棟、竪穴跡1棟、堀跡1条、溝跡1条、中世～近世の掘立柱建物跡22棟、柱列跡6列、土坑12基、柱穴478口、近世の竪穴状遺構1棟、を確認した。

**古墳時代** 遺構は確認されなかったが、須恵器の坏（第31図23）が出土している。その形態から、古墳時代中～後期のものと考えられる。東側に隣接する第56次調査でも、同時期の土師器や須恵器が出土している。里館遺跡の北東に隣接する宿田遺跡でも、同時期の遺物が出土していることから、雫石川を臨む滝沢台地周辺に古墳時代の遺構が存在していたことが推測される。

**竪穴建物跡** 竪穴建物跡は、隅丸方形で北もしくは南に舌状の出入り口が付けられている例が多い。一辺が約2～4mのほぼ同規模で、調査区西側では重複しているものもある。SI323～325は3時期に渡って建替えが行われたことが考えられる。今回、全ての竪穴建物跡内から時期を示す遺物は出土していないが、建物跡の形状と周辺の調査事例（第1・56次調査）から推測すると建物跡の時期は概ね15～16世紀と考えられる。

RE 005 竪穴跡は平面プランが1.6m×3.6mの長方形を呈し、深さは1.2～1.3mを計る。出入り口は確認できず、埋土は一括の人為堆積で出土遺物は無かったため、当初は後世のかく乱と想定していた。しかし、宇都宮市の飛山城で規模はやや異なるが、同じ長方形プランで長軸状に柱穴を持つ竪穴建物跡の事例（宇都宮市教育委員会1996）などを参考とすれば、出入り口は無いものの、この竪穴跡も中世に属する可能性もありそうである。

**掘立柱建物跡** 掘立柱建物跡は、東西棟が多くを占める。調査区外に延びる可能性があるものが多く、限定的ではあるが3間×2間または3間×1間の建物跡が半数を占める。埋土は掘方が暗褐色土で柱痕跡は黒褐色土を主体とするものが多数を占める。調査区北東と南西側では集中して検出されており、複数の時期に渡って建替えが行われたことが想定される。

遺物が出土していない建物跡が多いが、過去の調査事例と使用されている間尺（6尺5寸以上）、柱穴跡の埋土の共通性から、概ね里館遺跡の主体となる15～16世紀の時期が想定される。

SB 326～328は1間×9間以上の南北棟の掘立柱建物跡で、その平面形状から馬屋と考えられる。2回建替えが行われており、SB 328→SB 327→SB 326の順序が想定される。いずれの柱穴もSI 326 竪穴建物跡の埋土を掘り込んでいることから、年代は16世紀以降と推測されるが、後述する近世前期に属するSB 329 掘立柱建物跡との関連性は定かではない。

**SB 329 掘立柱建物跡** SB 329 掘立柱建物跡は、身舎梁間3間、桁桁6間の東西棟の直屋の南北に1～2間の庇ないし下屋が付く建物と考えられる。建物跡東側の今次調査区外の柱穴は、第56次調査で土坑としていたものであるが、今回、柱筋の見直しを行い新たに柱穴として掲載している。主柱穴には5寸ほどの角材が使用され、版築状に丁寧かつ強固に柱が据えられている。主柱穴の規模や掘方の埋土状況を見るだけでも、これまでの里館遺跡の調査の中で確認されたことのないタイプの建物跡であることが窺える。柱穴からは古唐津の丸皿（17世紀初頭）や古寛永通寶など出土している。出土遺物の年代から建物跡の年代を考えると、古寛永通寶が初鑄された寛永13（1636）年を上限として、それ以降と推定される。

**柱 列** 柱列跡は一部、掘立柱建物跡と重複するものもあるが、大半はすぐ傍に平行して掘立柱建物跡が存在している。概ね、他の建物同様、東西あるいは南北に軸を持っていることから、建物間を仕切る板扉等としての役割が想定される。遺物は出土しなかったが埋土の状態や、近接する建物跡の時期から中世以降と考



えられる。

**柱 穴** 調査区内からは、掘立柱建物跡に属する柱穴を除くと、478口の柱穴を確認した。Pit256からは瀬戸美濃灰釉皿（第31図5）が出土しており、大窯I期のものと考えられる。これらの柱穴は本来、掘立柱建物跡を構成していたものと考えられるが、全ての柱穴を掘立柱建物跡の柱穴として、使い切るには至らなかった。出土遺物と埋土の共通性から、掘立柱建物跡や竪穴建物跡と同様に15～16世紀に属するものが主体となると考えられる。

**土 坑** 土坑は楕円形または不整形のものが大半を占め、大きさは長軸が3mを超えるものから1mに満たないものまで様々である。埋土に焼土が含まれているものも認められるため、火を使用した用途も考えられるが、遺物が出土していないため詳細は不明である。

**出土遺物** 今回出土した遺物は、概ねこれまでの調査で出土した遺物と同様の物が多い。すなわち、15～16世紀の中国産陶磁器や瀬戸美濃、永楽銭などの古銭などである。また、18世紀代の肥前陶磁器なども散見されるのは、時代が下って城館としての役割を終え、近世の下栗谷川村の集落として屋敷などの建物等が存在したためである。

遺構に伴うものではないが、かく乱より相馬系陶器の手びねり碗が出土している。これまでも市内の近世遺構から相馬系陶器は多々出土しているが、「金重」の刻印と駒絵を施し、胎土に砂を混ぜる特徴をもつこの手びねり碗は、雅物と呼ばれ市内では初めて確認されたものである。年代は明治初頭に位置づけられている。

**ま と め** 今回の発掘調査でも、過去の調査と同様に15～16世紀の遺構・遺物が確認され、戦国時代の城館跡であることは明確である。今回の調査区は、東西と北を大規模な堀によって区画され、南は段丘崖によって画された曲輪の中に位置する。遺構の密度と重複関係から城館の主要部分であり、長期間に渡り使用されていたことが想定される。

掘立柱建物跡の大半は3間×2間か3間×1間の小規模なもので、間尺を6尺5寸以上の寸法を用いて作られる傾向がみられる。掘立柱建物が集中する調査区北東と南西側では、柱穴の重複が著しいことから建替えが長期に渡って行われていたことが想定される。竪穴建物は第56次調査区に比べると分布密度は薄い、重複している。掘立柱建物の建替えと同時に、竪穴建物の建替えも行われていた可能性が高い。竪穴建物は居住用の施設ではなく鍛冶工房や納屋、土室などの用途が想定されている。

掘立柱建物跡以外に478口の柱穴を検出したが、時間と力量不足から全ての柱穴を使い切り掘立柱建物跡を構成するに至らなかった。紙面に掲載した以上に掘立柱建物は増える可能性は十分にある。今後の検討課題とさせていただきたい。

SB329掘立柱建物跡の建築年代は、城館の主体となる時期からは外れて、江戸前期と考えられるが、その時期は隣接する天昌寺が再興した時期と重なるものである。寺伝によると天昌寺は、厨川柵の時代のころから当地に存在し、当初は天台宗であったという。実際、周辺では台密に関連する鎌倉時代の経塚（宿田南経塚）も確認されていることから、かつては天台宗であったという部分は信憑性が高いかもしれない。いずれ、時代が下ると寺は興廃し、名のみになったといわれている。そこへ、盛岡市上飯岡にある曹洞宗長善寺より七世物賛閑逸和尚が請われ、興廃した天昌寺を曹洞宗へ改宗し、山号を巖鷲山と称し、再興した。その七世物賛閑逸和尚の没年が、慶安二（1649）年となっている。建物跡の平面形状から、仏堂等とは考えられないが、しっかりとした柱の構造からすると、一般的な建物とは考えにくく、現在の敷地からは外れるが、当時の天昌寺に関連する庫裏などの建物跡と考えるのが妥当ではないだろうか。

里館遺跡は、北東に位置する安倍館遺跡と同様に厨川柵の擬定地として、長い間考えられてきたが、今回の調査でも当該期の遺構・遺物は確認されなかった。考古学的見地のみで考えるならば、厨川柵擬定地としての可能性は、ほとんど無いと言わざるを得ない状況である。

里館遺跡は、安倍館遺跡と同様に市街地に残された数少ない中世の城館遺跡である。里館の場合、安倍館遺跡のように堀が埋没せずに残っている状態ではないが、地表下には良好な状態で遺構が保存されていることは、これまでの発掘調査成果が示している。また、遺跡の西部(34・58・60次調査)では12世紀代の遺構・遺物が確認されている。これは、城館として成立した時期を検討する上で貴重な成果である。今後は、里館遺跡がいつの時期から城館として機能していたか、主殿と考えられる建物はどこにあるかなど、中世城館に主眼を置いた調査・研究を進めていくことが肝要となろう。その成果が、里館遺跡の文化的価値を高め、周辺地域の歴史や、盛岡周辺の中世城館の成り立ちを語るうえで欠かせないものとなるであろう。

最後にS B 329 掘立柱建物跡の検討にあたり、中村隼人氏のご教示を得た。記して感謝申し上げます。

(佐々木亮二)

#### 【引用・参考文献】(発掘調査報告書)

岩手県教育委員会 1979「厨川柵擬定地」『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2009『矢盛遺跡第12・13次発掘調査報告書 盛岡新都市土地区画整理事業関連遺跡調査』

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第534集

宇都宮市教育委員会 1996『飛山城第Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ次確認調査概報—平成4～6年度—』宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第38集

福島県教育委員会 1989『国営請戸川農業水利事業遺跡調査報告 中村遺跡』福島県文化財調査報告書第208集

#### 【引用・参考文献】(発掘調査報告書以外)

板橋源 1959「厨川柵擬定地盛岡市権現坂発掘概報」『岩手大学学芸学部年報』第14巻 岩手大学学芸部

川根正教 2001「寛永通宝銅銭の様式分類」『出土銭貨研究会紀要 出土銭貨研究』出土銭貨研究会

東北中世考古学会編 2001『掘立柱と竪穴 中世遺構論の課題』高志書院

中村隼人 2006『掘立柱建物跡から復元した中世港湾都市十三湊の都市構造に関する研究』

中村隼人 2015「南部諸城の研究」『紀要 第34号』(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

中村隼人 2017「根城復元主殿再考」『八戸市博物館研究紀要第31号』八戸市博物館

岩崎浩和 1995「曹洞宗 巖鷲山 天昌寺」『盛岡の寺院』盛岡市仏教会

兵庫埋蔵銭調査会 1996『中世の出土銭 補遺Ⅰ』

兵庫埋蔵銭調査会 1997『近世の出土銭Ⅰ』

兵庫埋蔵銭調査会 1998『近世の出土銭Ⅱ』

## 付章

### 里館遺跡の古絵図「斉藤家五代目善右衛門豊昌様之里館の絵図」について

#### 1 はじめに

「斉藤家五代目善右衛門豊昌様之里館の絵図」は、今次調査区の土地所有者である宗教法人天昌寺が、所有する絵図である。白黒複写（コピー）したものを天昌寺の先代住職の親が入手したものであるということ以外、詳しい来歴は不明であり、原本の所在は不明である。

現存するコピーから、絵図は86.0cm×78.5cm以上の大きさであり、裏に41.5cm×20.5cmほどの裏書がある。原本はおそらく、和紙を接いだもので、墨と所々に朱等で描かれたものと推察される。

この絵図に描かれた地点の範囲は、今次調査地点及びその周囲と考えられることから、書き下し翻刻した（第34図）。また、併せて絵図の内容と今次発掘調査及び第1次、第29次、第56次の発掘調査成果と比較した。

#### 2 絵図について

書き下し翻刻したものを第34図に掲載した。以下、絵図の内容を概観する。

本絵図には、中央南寄りに描かれた屋敷と、その周囲の建物、構造物、土地利用、立木の種類などが描かれている。屋敷は、その構造や建具の数などのほか、板敷き、窓の種類などが詳細に記述され、柱間寸法なども、おおよそ正確に描かれていると見られる。しかし、この屋敷と中央やや北寄りの祠、屋敷南西側建物以外の建物や構造物は、その描き方の差から、概ねの規模と位置関係を記したものと考えられる。

裏書には、建物の規模や建具類の数の記録や建築から改築の経緯が記されている（下段参照）。これによればこの絵図は、文政5年（1822年）の秋に改築完成した屋敷について、恐らくこの屋敷の主である豊昌のために書いたものである。屋敷は、安永年間（1772～1780年）から建築に着手し、寛政6年（1794年）に建替え、寛政、享和、文化年間に手入れをし、文政5年秋にこの絵図の形に完成したようである。また、文政7年に屋根改修（差し萱？）も行ったことが、文政七年に追記されたものと見られる。

これらのことから、本絵図は文政5年秋以降に描かれたものと考えられる。文政7年の改修についての2行は、筆跡などから、文政7年以降に書き加えられたものと推察される。

次に、絵図の内容を見てみる。

絵図は四隅にそれぞれ東西南北の方位が書かれ、中央南寄りに屋敷が描かれる。

この屋敷は、北側に土間の入口、西側に大戸入口がある。建物中央には常居の座敷があり、その周囲に座敷や板間などが配置された大規模なものだった。

絵図の南東辺中央付近に、道と入口が見え、階段状の表記がある。その登りきったところに冠木門のような表記が見える。そこから東西に分かれた道が北へ延び、西側には鳥居があり、北側の祠へと通じる。東の突き当りには、冠木門が見える。この冠木門の北東側に屋敷が立地する。屋敷の東側には、庭園が整備されている。「文政十一年五月庭作直し」とあり、建築当初から庭園が整備されていたようである。南側は池が整備されていたと思われ、中島や石灯笼、松、さつき、キャラ木、トクサなど植栽が表記されている。池の北側には、石灯笼が置かれ松などが植えられていた。屋敷東側の九畳の座敷の障子を開け廻り縁に立てば、この庭園と借景として東方の早池峰山などの山々が望める構造だったのではないだろうか。庭園の東側には柴垣（?）、北側には六間分の板塀で区画されている。庭園の南側

から石段付近までは段丘となり、木が生い茂る林となっていたようである。

屋敷の北東側には前庭（前二ハ）、北西には祠へ通じる参道、その参道入り口の西側に便所、便所の南側は畑と物干し場、冠木門のすぐ西には井戸、南東には空き地と便所のような建物が配されている。その外側は、畑として利用されていたようである。

屋敷地の道を挟んだ南西には、桁行七間梁行三間、北西側に三間突き出る曲家状の建物と、その東には北側に入口を持つ小屋がある。この建物には、「文政十亥十月 三間四間 新規建替」「三重郎父」と表記されている。これは、水路を隔て西側の「四百四十坪 里館三重郎」の父の家と考えられる。

庭園の北東には、松が植えられた土手が巡る「志福魂宮」というお堂が見える。現在の、供養塔北側付近の駐車場の地点に当たるか。

また、屋敷北西側の通路の奥には、鳥居が建ち、西へ折れるとまた鳥居があり、その北側に三間二間の祠がある。杉や松の生える土手で囲まれ、「文政十亥十月□□□□」とある。現在のガソリンスタンド西側の駐車場入口から西のビルに当たるか。その北には、東西に道が延び、現在の国道46号線付近と考えられる。おそらく第1次調査で検出した「稻荷社跡」に係する建物を指すものと考えられる。

屋敷地の北から東にかけては、用水路があり、これには「岩鷲山天昌寺 廻りの沢堰境なり」と表記され、天昌寺との土地の境界線とみなされていたようである。この用水路は、城館の堀跡をそのまま転用されたものと考えられ、現在も用水路として使われている。

### 3 発掘調査成果との比較

発掘調査で検出した遺構と、この絵図の建物など構造物の位置関係を比較する。

現在の天昌寺と今次及び第56次調査範囲を隔てる水路跡は、本絵図の北から東にかけて描かれている用水路と考えられる。用水路とその東側の「岩鷲山天昌寺」は現在の位置と変わらないだろう。絵図に描かれたこの用水路は、北側から西方へ屈曲し延びる。この水路は現在もなお水路として残っており、場所が比定できる。

本図の中央やや北寄りに見える「文政十年（1817）亥十月□□□□」とある鳥居と祠は、第1次調査で検出した「稻荷社跡」の建物跡と鳥居跡であることが、位置関係や構造から比定できる。

以上の位置関係を参考にすると、本絵図中央南寄りの屋敷の北西側に、梁間1間桁行3間の東西棟の便所が描かれているが、今次調査区北西隅のRB320掘立柱建物跡の可能性もある。また、第56次調査のRZ002・003・004は、本絵図東隅の庭の池の痕跡または作庭時の何らかの痕跡の可能性が考えられる。

一方、本絵図に描かれた屋敷は、今次調査及び第56次調査で検出した掘立柱建物跡とは、柱配置等から比定することはできなかった。これは、本絵図に描かれた文政年間頃のこの規模の建物は、表土上に礎石を据えて柱などを建てる石場建てになっている時期と考えられ、遺構掘削深度が浅かったため、遺構として検出できなかったものと考えられる。

しかし、この絵図が描かれる前に掘立柱建物で作られた鳥居や祠建物（第1次調査報告における稻荷社跡）は、代々その場所を変えずに場所が受け継がれたこと、そして便所跡は石場建てよりも簡便な掘立柱建物で作られていたことにより、発掘調査でその柱穴が検出されたものと考えられる。

#### 4 まとめ

「盛岡藩家老席日誌 雑書」享保12年(1727年)3月20日の記事に、下栗谷河村三十郎居宅が失火により焼失し、天照寺(天昌寺)もその飛び火により焼亡したと記されている(下段参照)。本絵図の中央やや北寄りに、「里館□(無カ?)高屋敷 享保十五年庚戌□□上有 文政五壬午年迄 九十三年に成候 千坪半 里館 三十郎」とみえる。これは享保15年から文政5年まで93年たっており、雑書に見える享保12年の火災で焼失した三十郎居宅があった享保年間以降、この場所には屋敷がなかったという意味と推察される。(絵図には享保15年とあるが、享保12年の誤りか。)本絵図の南隅には「四百四十坪 里館三重郎」と見える。雑書に見える河村三十郎と関係があるかは不明である。なお、天昌寺の由来には、この火災のことは記載されていないようである。

残念ながら、管見の限りでは、本絵図の主である斉藤家五代目善右衛門豊昌の情報は見つけられなかった。

以上のことから、本絵図は本発掘調査成果と共に、近世後期におけるこの場所の土地利用について、詳しく知ることのできる貴重な資料と言えよう。

最後に、本稿に当たり、宗教法人天昌寺、安田隼人氏(元盛岡市都南歴史民俗資料館学芸員)、菊池早希氏(盛岡市教育委員会事務局歴史文化課学芸調査員)の多大なる御協力を頂いた。記して感謝申し上げます。(今野公顕)

#### 【引用参考文献】

盛岡市教育委員会・盛岡市中央公民館 1999『盛岡藩家老席日誌 雑書』第13巻 P385 熊谷印刷

盛岡市教育委員会 1985『盛岡市埋蔵文化財調査年報—昭和55～58年度—』

盛岡市遺跡の学び館 2013『里館遺跡-供養塔および駐車場造成に伴う緊急発掘調査報告書-』宗教法人天昌寺・盛岡市教育委員会

「齊藤家五代目善右衛門豊昌様之里館の絵図」裏書

家梁四間四尺桁行八間四尺西南三間宛出家  
 畳四拾四畳外六畳有りノ五拾畳

小障子 六数 ママ(佐の側連いか)

障子 三十二数

小襖戸 六数

大襖戸 十三数 外四数 □式数

戸 式十数

雨戸 拾八数

大戸 壹数

坪 六十五□

屋根坪ノ百式拾ほど

右建屋北附廻り

此図は豊昌様之

被為書候絵図なり

文政五年秋御□被成候

安永年中す合屋しき地段々手入いたし

寛政六寅に建替

寛政年□ノ享和年

文化年中家手入文政五年壬午秋改

同七年中「(不鮮明判読不能)」

同屋根差「(不鮮明判読不能)」

下厨川邑里館之屋敷絵図

七座敷外板間也

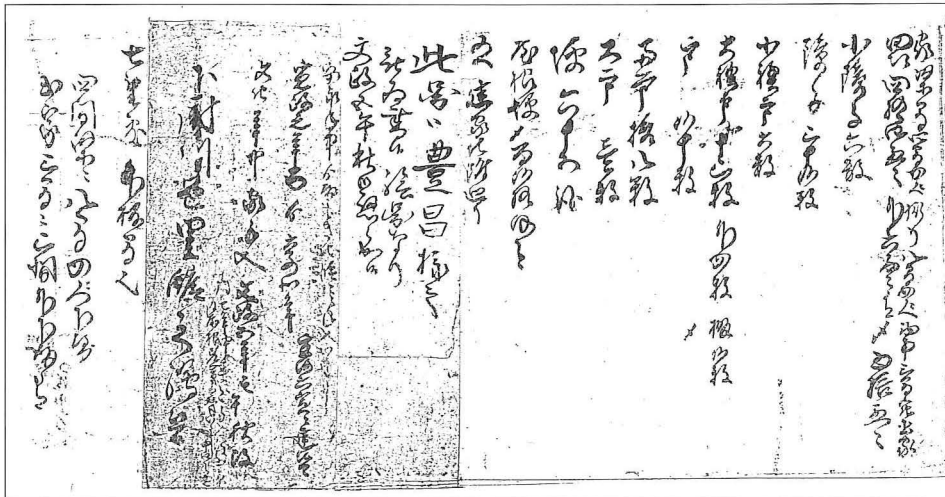
四間梁に八間四尺下屋

式家三間に三間下屋有

「盛岡藩家老席日誌 雑書」第十三卷 P 385

享保十二年三ノ廿日 晴天

一 栗谷川通御代官所之内、下栗谷河村三十郎居宅自火にて焼失、夫より天照寺  
 飛移焼亡仕候旨、御代官高杉新兵衛訴之、右火本五人組預置候由、申上之



「齊藤家五代目善右衛門豊昌様之里館の絵図」裏書



第34図 齊藤家五代目善右衛門豊昌様之里館の絵図

写 真 图 版





里館遺跡第64次調査区遠景（南東から）



里館遺跡第64次調査区全景（上が北）

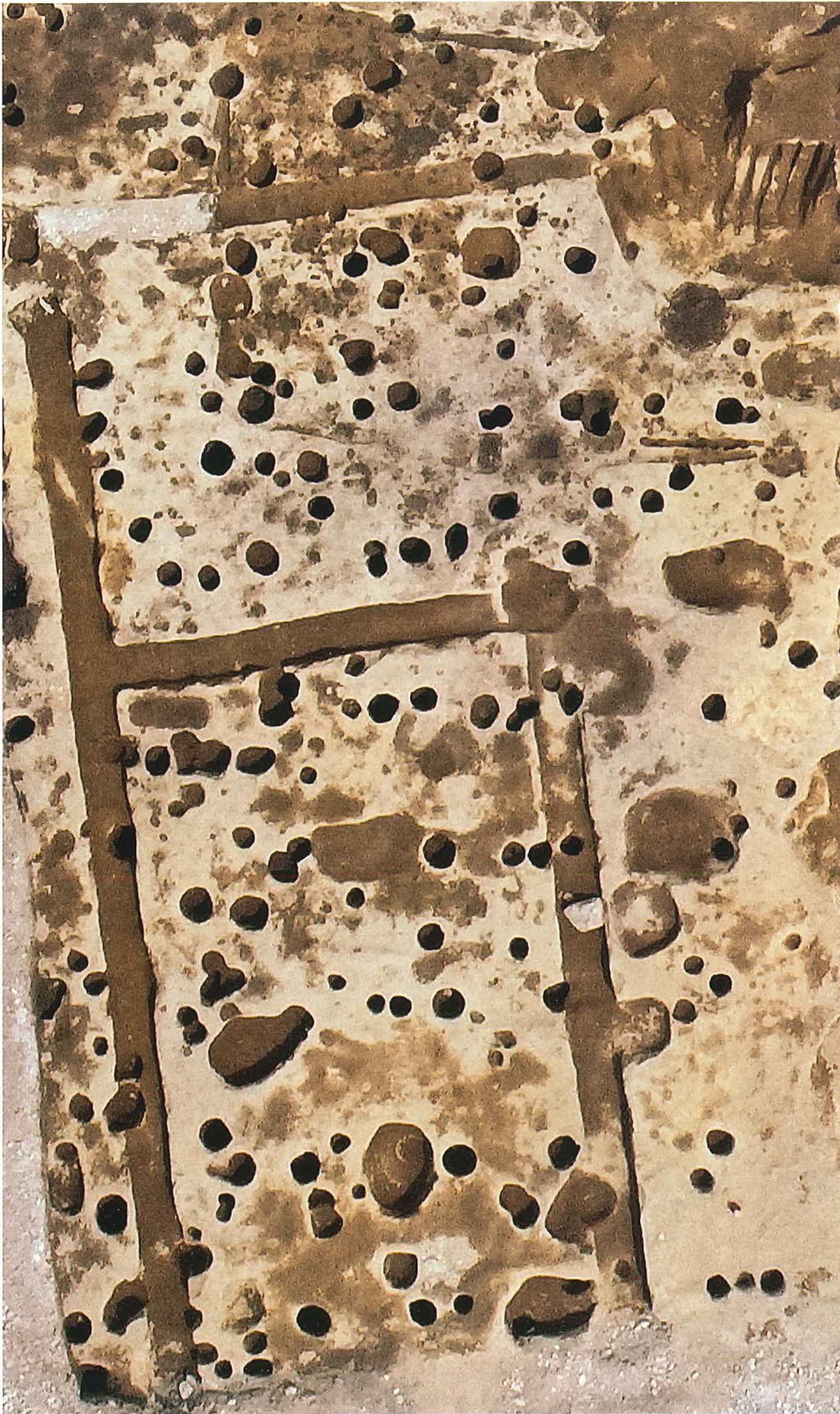
第2図版



SI327 竪穴建物跡（南東より）



竪穴建物跡（SI323～325）重複状況（南東から）



SA312 柱列跡, SB324 ~ 328 掘立柱建物跡 (上が北)

第4図版



SB329 掘立柱建物跡（上が北）



SD300 堀跡（南東より）



里館遺跡第64次調査出土遺物①

第6図版



里館遺跡第64次調査出土遺物②

## 報告書抄録

ふりがな	さたていせき							
書名	里館遺跡							
副書名	保育園建設に伴う緊急発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	佐々木亮二 今野公顕							
編集機関	盛岡市 遺跡の学び館							
所在地	〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1 TEL019-635-6600							
発行機関	社会福祉法人天昌寺福祉会 盛岡市教育委員会							
発行年月日	2019/8							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	世界測地系				
さたていせき 里館遺跡	いわてけんもりおかし 岩手県盛岡市 てんしやうじちやう 天昌寺町	3201		39° 40' 57"	141° 08' 19"	(第64次) 2018.04.2～ 2018.06.22	920	保育園建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
里館遺跡 (第64次調査)	城館	古墳時代			須恵器坏		城館の主要部分に当ると考えられる地点を調査し、多数の掘立柱建物跡や堅穴建物跡が確認された。	
		中世	堅穴建物跡	6	陶磁器(中国産染付け、瀬戸美濃灰釉、肥前染付、相馬大堀手捻り碗、岩手焼)、釘、搗臼、砥石、古銭(寛永通寶、永楽通寶無銘銭)			
		中～近世	掘立柱建物跡	19				
			柱列跡	8				
近世	土坑	12						
			柱穴	478				
			堅穴跡	1				
			掘立柱建物跡	3				
要約	里館遺跡はこれまでの調査で堀跡や掘立柱建物跡などが確認され、出土遺物の年代から15～16世紀を主体とする城館跡であることが判明している。第64次調査では、掘立柱建物跡や堅穴建物跡など、これまでと同じく中世城館を構成する遺構が多数確認された。その遺構密度から今回の調査地点は城館の主要部分と考えられる。また、江戸初期に再建された曹洞宗巖鷲山天昌寺に関わると考えられる大形の掘立柱建物跡を確認した。							

---

---

## 里館遺跡

—保育園建設に伴う緊急発掘調査報告書—  
2019年8月31日 発行

編 集 盛岡市遺跡の学び館  
〒020-0866 盛岡市本宮字荒屋13番地1  
TEL 019 - 635 - 6600

発 行 社会福祉法人天昌寺福社会 盛岡市教育委員会

印 刷 株式会社 杜陵印刷  
〒020-0122 盛岡市みたけ2丁目22-50  
TEL 019 - 641 - 8000

---

---